

## 和仏法律学校講義録

鈴木, 宗言 / 有賀, 長文 / 加藤, 正治 / 高野, 岩三郎 / 杉本, 貞治郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

50

(発行年 / Year)

1899-03-10

和佛經濟學綱要

講義筆記

每月貳回 目次

第 參 號  
 金工 融業 機下 關其 (自二頁至五頁) 法學士有賀長文

經 濟 學 (自六頁至八頁)	法學士 高野岩三郎
商 法 總 則 (自一頁至八頁)	法學士 杉本貞次郎
海 商 法 (自二頁至四頁)	法學士 加藤 正治
破 產 法 (自四頁至六頁)	法學士 鈴木 宗言
財 政 學 (自四頁至六頁)	法學士 有賀長文



### 新商法講義ノ掲載

商法改正案議會ヲ通過シ其裁可、公布ノ日ハ將ニ數日ノ後ニ在ラント  
 ス此際ニ當リ本校ハ新ニ改正商法ノ講義ヲ開始シ迅速ニ之ヲ本講義錄  
 (第一部)ニ掲載スルコト、セリ世間未タ新商法ノ著ナク又之カ講義錄  
 アルヲ見ス本講義錄ハ此ニ率先シテ一般ノ急需ニ應セントス寔ニ我  
 外生ノ幸福ナリト謂フヘシ而シテ擔任講師ハ孰レモ商法專攻ノ學者ニ  
 シテ其講義ハ深遠、正確モ遺憾ナカラルヘク尙校長梅博士ハ特ニ改正  
 商法ノ要旨ヲ講述セラルヘキニ因リ錦上更ニ花ヲ添フルノ觀アルヘシ

### 新商法擔任講師

- |         |                            |
|---------|----------------------------|
| 第一編 總則  | 農商務省參事官法學士 杉本貞次郎           |
| 第二編 商會社 | 東京控訴院部長法學士 齋藤十一郎           |
| 第三編 商行爲 | 法典調査會起草委員 法律學士 富谷銈太郎       |
| 第四編 手形  | 東京控訴院部長法典調査會起草委員 法律學士 加藤正治 |
| 第五編 海商  | 法典調査會起草委員 補助大學院學生 法學士 加藤正治 |

キエティンバラノ税關長ト爲リ千七百九十年其死ニ至ルマテ此職ヲ奉シタリキ  
 國富論ハ五編ヨリ成ル第一編ハ勞力分業貨幣價格實錢地代利潤等ヲ論シ第二  
 編ハ資本ノ性質蓄積及使用法ヲ説キ第三編ハ實例ニ據リテ諸國民經濟上ノ進  
 歩發達ヲ説明シ第四編ハ重商主義及重農主義ニ對シテ細評ヲ試ミ併セテ殖民  
 制度等ニ關シテ論述シ第五編ハ國家財政ノ原理ヲ論セリ而シテ總テ氏カ是等  
 ノ問題ヲ論スルヤ頗ル詳細ヲ極メ而モ決シテ抽象的ニ流ル、コトナク常ニ歷  
 史上實際上ノ事實ニ據リテ其議論ヲ確メタリキ  
 今下ニ氏ノ所說ノ大要ヲ擧ケン

- (一) 勞力ハ國富ノ本源ナリ且勞力ハ總テ貨財ノ交換價值ヲ計ルノ標準タルヘキ者ナリ而シテ勞力ハ分業ニ依リテ其効果ヲ大ナラシムルコトヲ得然レトモ分業ハ貨財販路ノ廣狹ニ因リテ制限セラル從テ販路ノ擴張ハ勞力ノ生産力ヲ大ナラシム
- (二) 人々其利己心ニ依リテ經濟ニ交々相競争シテ其利ヲ計ルハ一國經濟的進歩ノ途ナリ從テ經濟上ニハ充分ノ自由ヲ與ヘ妄リニ人爲ヲ以テ之ヲ制限ス

### 新高法講義ノ掲載

商法改正案議會ヲ通過シ其裁可、公布ノ日ハ將ニ數日ノ後ニ在ラントス此際ニ當リ本校ハ新ニ改正商法ノ講義ヲ開始シ迅速ニ之ヲ本講義錄(第二部)ニ掲載スルコト、セリ世間未タ新商法ノ著テク又之ヲ講義錄アルヲ見ス本講義錄ハ此ニ卒先レテ一般ノ急需ニ應セントス寔ニ我校外生ノ幸福ナリト謂フヘシ而シテ擔任講師ハ孰レモ商法專攻ノ學者ニシテ其講義ハ深遠、正確毫モ遺憾ナカルヘク尙校長梅博士ハ特ニ改正商法ノ要旨ヲ講述セラルヘキニ因リ錦上更ニ花ヲ添フルノ觀アルヘシ

### 新商法擔任講師

- 商法
- 第一編 總則……………農商務省參事官法學士 杉本貞次郎
  - 第二編 商會社……………東京控訴院部長法學士 齋藤十一郎
  - 第三編 商行爲……………法典調查會起草委員 法律學士 富谷銈太郎
  - 第四編 手形……………東京控訴院部長 法律學士 加藤 正治
  - 第五編 海商……………法典調查會起草委員 法學士 加藤 正治

090  
1899  
2-13

キエデインバラノ税關長ト爲リ千七百九十年其死ニ至ルマテ此職ヲ奉シタリキ」國富論ハ五編ヨリ成ル第一編ハ勞力分業貨幣價格實錢地代利潤等ヲ論シ第二編ハ資本ノ性質蓄積及使用法ヲ説キ第三編ハ實例ニ據リテ諸國民經濟上ノ進歩發達ヲ説明シ第四編ハ重商主義及重農主義ニ對シテ細評ヲ試ミ併セテ殖民制度等ニ關シテ論述シ第五編ハ國家財政ノ原理ヲ論セリ而シテ總テ氏カ是等ノ問題ヲ論スルヤ頗ル詳細ヲ極メ而モ決シテ抽象的ニ流ル、コトナク常ニ歷史上實際上ノ事實ニ據リテ其議論ヲ確メタリキ

今下ニ氏ノ所説ノ大要ヲ擧ケン

- (一) 勞力ハ國富ノ本源ナリ且勞力ハ總テ貨財ノ交換價值ヲ計ルノ標準タルヘキ者ナリ而シテ勞力ハ分業ニ依リテ其効果ヲ大ナラシムルコトヲ得然レトモ分業ハ貨財販路ノ廣狹ニ因リテ制限セラル從テ販路ノ擴張ハ勞力ノ生産力ヲ大ナラシム
- (二) 人々其利己心ニ依リテ經濟レ交々相競争シテ其利ヲ計ルハ一國經濟的進歩ノ途ナリ從テ經濟上ニハ充分ノ自由ヲ與ヘ妄リニ人爲ヲ以テ之ヲ制限ス



正 誤

第二部第一號

財政學

一三頁 「第八節」ハ「第五節」ノ誤

一六頁 「第七節」ハ「第六節」ノ誤

一八頁 「第八節」ハ「第七節」ノ誤

二二頁 「第九節」ハ「第八節」ノ誤

第二部第二號

財政學

二六頁 「第十節」ハ「第一節」ノ誤

二九頁 「第十一節」ハ「第二節」ノ誤

三三頁 「第十二節」ハ「第三節」ノ誤

三七頁 「第十三節」ハ「第四節」ノ誤

四二頁 「第十四節」ハ「第五節」ノ誤

- 可ラス
- (三) 國家ノ職務ハ之ヲ外ニシテハ外敵ノ侵入ヲ防キ之ヲ内ニシテハ法律制度ヲ保維シテ人民ノ身體生命財產ヲ護リ兼テ又公益ノ爲ニ必要ナル教育交通其他ノ造營物ヲ設備スルノ三點ニ止ムヘシ
  - (四) 有形ノ貨財ヲ造リ出スノ勞力ノミカ生産的勞力ナリ從テ農工商ノ三者ハ生産業ノ主要ナルモノナリ人ノ勤勞ハ他ノ點ニ於テハ頗ル有用ナリト雖モ經濟上ニ於テハ不生産的ナリ
  - (五) 氏ハ貨幣ノ功用ヲ充分ニ認識セリ而モ重商主義カ其功用ヲ過大視シタルノ弊ニ陥ラザリキ
  - (六) 資本ノ性質并ニ其經濟上ニ於ケル任務ハ氏ノ精密ニ説明シタル所ナリ
  - (七) 氏カ重農主義及重商主義ニ對スル批評ハ論鋒精銳所論穩健蓋々國富論中ノ壓卷タリ
  - (八) 生産ノ結果ハ地主資本家并ニ勞働者ノ間ニ地代利潤及賃錢ノ形ニ於テ分配サル而シテ是等ノ人々ハ各自其實力ニ應シテ租稅ヲ出サ、ル可ラス

(九) 國家ハ各人ノ納ムル租稅ヲ以テ其經常收入ト爲シ以テ百般ノ支出ニ充テサル可ラス

スミス氏一タヒ其說ヲ公ケニシテヨリ以來其本國英吉利ニ於テハ勿論其他佛蘭西ニ亞米利加ニ獨逸ニ伊太利ニ學者ノ其說ヲ奉スル者續々トシテ顯ハレ來リスミス氏ノ學說ノ欠ケタルヲ補ヒ論シ及ハサリシ所ヲ究メ遂ニ所謂スミス主義ノ成立ヲ見ルニ至レリスミス主義ハ如此クニシテ經濟學界ヲ風靡シタルノミナラス更ニ又各國政府ノ政策ヲ左右シ其實際ニ及ホシタル影響亦頗ル大ナリ一言以テ之ヲ蔽ヘハスミス主義ハ最近時ニ至ルマテ東西ノ經濟界ヲ支配シタルノ主義ナリト謂テ可ナリ余ハ以下項ヲ追フテ英米獨佛伊等ノ重ナル國々ニ於ル經濟學ノ狀況ヲ畧述シ以テ如何ニスミス主義ノ旺盛ヲ極メタルヤヲ示シ并セテ此主義ニ反對ヲ唱フル者漸ヲ追フテ出テ遂ニ最近時獨逸ニ於テ歷史學派殊ニ社會政策學派ノ發生ヲ來セル景況ヲ明ナラシメント欲ス

第五項 スミス後英國及米國ニ於ケル經濟學

スミスノ學說ハ英國人ノ手ニ依リテ切瑣琢磨ノ勞ヲ經人之ニ接シテ輪郭整然

色澤兼子備ハレル一大美壁ヲ觀ルノ思アラシムルニ至レリ英國學派ノ稱亦是ニ於テ乎則チ有リ

スミス氏ニ次テ出テ其學派ノ大成ニ與テ大ニカアル者ヲダヴョット、リカード(千七百七十二年ニ死ス)ト爲ス氏ノ經濟問題ヲ論スルヤ主トシテ抽象的推理ノ方法ヲ用非簡單ナル前提ヲ置キ之ニ基キ一意論理的ニ推論ヲ試ミ其推論ノ結果カ實際ノ狀況ト差異ヲ生スルハ寧ロ其顧ミル所ニアラザリキ所謂抽象學派ナルモノハ如此ニシテ氏ノ開キタル所ニ係ル氏ハ金屬ノ價格、穀物ノ價格、貨幣及銀行ニ關スル種々ノ論文ヲ公ケニセシカ就中其最モ重ナル著書ヲ千八百十七年ニ出版セル經濟及租稅原論トス書中特ニ有名ナルハ價值、賃錢、利潤及地代ニ關スル理論ニシテ其大要ヲ述レハ

(一) 氏ハ貨財ヲ分テ隨意ニ生産スルヲ得サルモノト隨意ニ其欲スル丈ケ生産スルヲ得ルモノトノ二ト爲シ而シテ前者ノ價值ハ其稀有ノ程度ニ關係ヲ有シ其貨財カ之ニ對スル欲望ニ比シテ稀ナルコト甚シケレハ其價值高ク然ラサレハ其價值低シ又後者ノ價值ハ單ニ其生産ニ要セラル、勞力ニ依リテ決定セラル

ト爲セリ氏曰ク貨財(後ノ場合ノ交換價值ハ其生産ニ必要ナル勞力ト正比例ス而シテ其勞力トハ直接ニ該貨財ノ生産ニ費サレタルモノ、ミナラス其生産ニ使用セラル、器具機械ノ爲ニ費サレタル勞力ヲモ包含スト此思想ハ實ニロドベリッス及ヒマルクス一派ノ社會黨カ採テ以テ其價值ノ基礎ト爲シタルモノナリ

(二) 勞働者ノ受ル所ノ賃錢ハ一部ハ一般貨財ノ價格殊ニ生活必需品ノ價格ニ關係ヲ有シ又一部ハ勞力ノ供給ト資本ノ供給トノ比例ニ依リテ定マルモノナリ而シテ生活必需品ノ價格ハ即チ賃錢ノ自然的價格ニシテ實際勞働者ニ對シテ支拂ハル、賃錢即チ勞力ノ市價ハ勞力ノ供給ト資本ノ供給トノ關係ニ依リテ定マリ常ニ自然的價格ノ上下ニ昇降シテ之ニ就カントスル傾向ヲ有スルモノナリ

(三) 資本家ノ得ル所ノ利潤ニ關シテリカード氏ノ考フル所ハ利潤ハ賃錢ト反比例ノ關係ニ立チ賃錢降レハ利潤昇リ賃錢昇レハ利潤減ス且利潤ハ重ニ生活必需品ノ價格昇騰ノ結果トシテ漸次減少ニ赴ク自然ノ傾向アリト云フニ在リ

(四)リカード氏ノ地代ニ關スル學說ハ後章地代論ニ於テ詳説スヘキヲ以テ此ニハ只其概要ヲ一言センニ土地ハ常ニ盡ク地代ヲ生スルモノニアラス人口増加シ其需要ニ應スルカタメ勢ヒ從來耕作セルモノヨリモ劣等ノ土地即チ多クノ生産費ヲ要スル土地ヲ耕サ、ル可ラサルニ至リテ始メテ優等地ニ地代ヲ生ス何トナレハ劣等地ニ要セラル、高キ生産費カ穀物ノ價格ヲ支配スレハナリ最劣等地ニハ地代ナシ地主ハ只生産費ヲ償フヲ得ルノミト

リカード氏ト相並ンテスミス派中ニ其名聲ヲ馳セタル者ヲロバートマルサス(千七百六十六年ニ生レ)ト爲ス氏ニ「地代ノ性質及進歩ヲ論ス」千八百十五年出版「經濟原論」千八百二十年出版及「人口論」千七百九十八年及千八百〇六年出版并ニ「人口論補遺」千八百十七年出版等ノ著書アリ就中尤モ有名ナルハ人口論ニシテ氏之ヲ以テ長ク其名ヲ經濟學史上ニ留ム氏ノ人口ニ關スル學說ノ骨子ハ人口ハ幾何級數ニ四十六ト云フカ如キ乗算の割合ヲ以テ増加スルニ食物ハ算術級數ニ四十六ト云フカ如キ加算の割合ヲ以テ増加スルニ過キス隨テ人口過殖ノ患常ニ存スト云フニ在リ此理論ニ基テ氏ハ戰爭疫病殺人等總テ人口過殖

ヲ防遏スル事柄ノ世ニ存スルヲ以テ己ムヲ得サルコトナリト爲シ又大ニ早婦ノ美ヲ攻撃シ且一切ノ施與ヲ排斥セリ

上記二氏ニ續テ出テタルスミス學派ノ學者ニシテ尙此ニ舉クヘキハジエームスミル千八百二十一年「經濟原論」著アリ、マクカロック其著頗ル多シ中尤モ重ナルモノヲ千八百二十五年ニ公ニセル「經濟學原理」ト爲之、セニオル千八百三十六年「經濟學汎論」著アリノ三氏ナリ然ルニ既ニ當時ニ於テスミス學派ニ反對ノ學者顯ハレタリ他ナシジエームス、ローダーデル其人ニシテ氏ハ千八百〇

四年國富ノ性質及起原論ヲ著ハシ其所見ヲ述ヘタリキ  
續テ千八百三十九年ニ至リコブデン(千八百〇四年ニ生レ)及「ブライト」(千八百九十年ニ死ス)ノ二氏主唱者ト爲リ所謂非穀物條例同盟ヲ組織シテ盛ニ當時英國ニ行ハレタル穀物條例ノ廢止ヲ唱ヘ遂ニ千八百四十六年六月ニ至リ其目的ヲ達シ穀物條例ハ法律ヲ以テ廢止セラレ外國產穀物ハ自由ニ英國ニ輸入セラル得ルコト爲ナレリ而シテ此黨派ノ根據地マンチエスター市ニ在リケレハ人此派ヲ呼テマンチエスター派ト云フ又此派ハ爾來頻リニ自由貿易ノ利ヲ説キ

實際上並ニ學問上ニ重大ノ影響ヲ及ボシタリ  
 更ニ近時ニ至リ英國ノ經濟學史上重要ノ地位ヲ占ル者ヲジオンヌヂェワートミル  
 (千八百〇六年ニ生レ)トナス其著「經濟學原理及其社會哲學」ニ於ル應用一斑  
 (千七百七十三年ニ死ス)ハ千八百四十七年ニ始メテ世ニ公ニセル所ニシテ當ニ其本國ニ於テノミナラ  
 ス外國ニ於テモ亦廣ク行ハル氏ハ一方ニ於テハスミス其他先人ノ經濟學說ヲ  
 綜合シ之ニ修正敷衍ヲ試ミ以テスミス學派ヲ大成シタルト共ニ他ノ一方ニ於  
 テハ經濟學ヲ社會學ト結ヒ付ケ抽象的演繹的論法ニ偏スルヲ避ケ自由競争ノ  
 弊害ヲ承認シ勞動者ノ地位ヲ改良スルノ必要ナルヲ説キ其他社會主義ノ理論  
 ヲ幾分參酌シ以テ別ニ自ラ一新生面ヲ開拓セリ要スルニ氏ハ英國學派ヨリ獨  
 逸新學派ニ轉移スル道途ノ中間ニ其地步ヲ占ルノ人物ナリトス  
 ミル氏ノ外英國ニ於ケル經濟學ノ發達ニ與テ力アル最近時代ノ學者并ニ其重  
 ナル著述ヲ列舉スレハ左ノ如シ  
 (一) マルントン (千八百十三年ニ生) 千八百七十年勞働論ノ著アリ  
 (二) ケアンス (千八百二十三年ニ生) 千八百六十二年「奴隸國」千八百五十七年ニ

經濟學ノ性質及研究法千八百七十四年ニ經濟學ノ主要原理ノ著アリ  
 (三) ジェヴォンズ (千八百三十五年ニ生) 千八百七十一年ニ經濟原理千八百七十五  
 年ニ貨幣論ノ著アリ  
 (四) オーセツト (千八百三十四年ニ生) 千八百六十五年ニ經濟學提要千八百七  
 十八年ニ自由貿易保護貿易論千八百八十四年ニ勞カト貨錢ノ著アリ  
 (五) バジオット (千八百二十六年ニ生) 千八百七十三年、ロムバード街(金融事情)ノ  
 著アリ  
 (六) シリフ、レスリ (千八百二十七年ニ生) 千八百七十九年政治哲學及倫理哲學  
 ノ著アリ  
 (七) ロジヤース (千八百二十三年ニ生) 一六世紀間ノ勞力及貨錢其他經濟史ニ關ス  
 ル名著多シ  
 (八) トインビー (千八百五十二年ニ生) 「英國産業革命史」ノ著アリ  
 (九) マクロード (千八百二十一年ニ生) 千八百五十五年銀行ノ原理及應用ノ著アリ  
 (十) イングラム (千八百二十一年ニ生) 千八百七十八年ニ經濟學ノ現在及將來千八百八十

八年「經濟學史」ノ著アリ

(十一) オン・レヴグー「英國商業史」ノ著アリ

(十二) ゴッシエン(千八百三十二年ニ生) 千八百六十三年外國爲替論ノ著アリ

(十三) シジュウツク 千八百八十四年「經濟學原理」ノ著アリ

(十四) ガンニンガム「英國商業史」ノ著アリ

(十五) マーシャル(千八百四十一年ニ生) 「産業經濟學」經濟學原理等ノ著アリ

(十六) フォクヌウエル 現ニケムブリッジ大學ノ教授ニシテ有望ノ人ナリ

翻テ眼ヲ亞米利加ノ新世界ニ轉スレハ此地ノ經濟學ハ極メテ晚近ノ發達ニ係リ隨テ學者其人ニ乏シ然レトモ近來ニ於テハ此學ノ研究同國諸大學ニ盛ニシテ且獨逸ニ留學シテ新智識新學風ヲ輸入シ來ルノ學者モ甚タ多キヲ以テ將來同國ニ於ケル經濟學ノ進歩ハ蓋シ頗ル著シキモノアラン而シテ此國ニ於テ第一ニ吾人ノ眼ヲ惹クモノヲケリー(千七百九十三年ニ生)ト爲ス氏ハ英國舊學派ノ反對論者ニシテ千八百五十八年有名ナル「社會學原理」ヲ著ハシテ其意見ヲ發表セリ氏ハスミスノ自由貿易說ニ反對シテ保護稅ノ必要ナル場合アルヲ

唱ヘ又リカドノ地代說ニ反對シテ實際上土地耕作ノ順序ハ劣等地ヨリ優等地ニ移ルヲ論シ且マルサスノ人口論ニ反對シテ人口ノ増加決シテ患フルニ足ラサルヲ説キタリケリー氏ノ外ニハウオーカー氏(千八百四十六年ニ生)ニ「貨錢問題」經濟學及貨幣論等ノ著アリイリー氏ニ「經濟學ノ原理」社會主義及社會改良等ノ著アリハッテン氏ニ「經濟學ノ教育的價值」合理的租稅原理「保護稅ノ經濟的基礎」及ヒ「經濟動學原理」ノ著アリ

第六項 獨逸ニ於ル近代ノ經濟學

スミス派經濟學ノ獨逸ニ入ルヤ學者ノ争フテ之ニ赴クモノ多ク茲ニ亦一大學派ヲ成シ長ク其經濟學界ヲ支配シタリ此時代ニ於ケル經濟學者ノ有名ナル者ヲクラウス(國家經濟)ノ著アリ、フォンゾーデン(經濟學)ノ著アリ、フリーフェランド(國家經濟策)ノ著アリ、チーベニウ(其著公債論ハ頗ル有名ナル好著述ナリ)并ニホッフマン(貨幣論)ノ著アリ等トス

以上ノ人々ニ比シテ一層重要ノ地位ヲ占ムル者ヲラウ(千七百九十二年ニ生)ト爲ス氏ハ千八百二十六年ヨリ同三十七年ニ亘リテ「經濟學全書」ヲ著セリ同書ハ

三卷ヨリ成リ第一卷ハ經濟原理ニシテ第二卷ハ經濟政策學第三卷ハ財政學ナリ其包含スル所經濟學全般ニ亙リ當時行ハレタル教科書中ノ最良ナルモノナリ而シテ同書ノ長所ハ材料ノ排列分類整然トシテ其宜キニ合ヒ又歷史上統計上法律上ノ事實ニ富ミ且一般經濟ノ理論ヲ國家ノ政策并ニ其財政ノ上ニ應用シタルノ點ニ在リトス

又フオン、ヘルマン(千七百九十五年ニ生スレ)ハ千八百三十二年國家經濟上ノ研究ト題スル一書ヲ著シ精細ニ經濟學ノ根本觀念ヲ論究シテ頗ル其理論ノ發達ヲ裨補セリ一例ヲ舉クレハ氏ハリカードカ勞力ノミヲ以テ價值ノ本源ト爲シタルハ偏見タルヲ免カレスト説キ且自ラ一ノ價格論ヲ立テタリ其論ノ周到精密ナルコト前人ニ未タ嘗テ見サル所ナリ然リト雖モ氏ノ研究方法ハ尙依然トシテ英國學派ノ抽象的論法ヲ襲用シ從テ其結論ノ大ニ實際ノ狀況ト異ナルモノアルハ免カレサル所ナリ

〔孤立國論〕著者トシテ有名ナルフエン、ターチン(千七百八十三年ニ生スレ)ハ更ニ一層抽象的演繹方法ニ依リテ經濟上ノ研究ヲ行ヘルノ人ナリ而シテ氏カ殊ニ

カヲ費シタルハ貨錢ノ問題ニシテ苦思熟慮ノ結果自然的貨錢ハ<sup>v</sup>印ナル方式ヲ以テ表ハスコトヲ得ヘシト唱ヘタリハハ勞働者ノ生活ニ必要ナル費用ニシテ<sup>v</sup>ハ其勞力ノ結果ヲ示ス氏ノ考フル所ニ依レハ貨錢ノ高低ハ勞力ノ結果タル生産物ノ價ニ關係ヲ有ストシ此思想ニ基キ氏ハ其所有地ニ於テ所謂利益配分法ヲ實行シ勞働者ヲシテ純益ノ分ケ前ニ與カラシメタリキ又氏ハ地代カ地位ニ便否ノ差アルヨリ發生セ增加スルモノナルヲ説明シ以テリカードノ地代說ヲ補充スル所アリタリ

上記諸學者ハ皆其大體ニ於テスミス學派ニ屬スルモノナリ今ヤ此學派ニ反對ヲ試ミタル學者ノ重ナル者ヲ舉ケンカ先ツ第一ニミユルレルアリ氏ハ千八百〇九年政治原論ヲ著シテ中世ノ封建時代ヲ稱揚シ大ニ經濟的復古ヲ唱ヘタルノ人ナリ次ニ哲學者フ非ヒテアー氏ハ千八百零年領國の商業國ヲ著シ國家社會主義的重商主義ヲ主張セリ又フオン、ベルンハルデイアリ氏ハ千八百四十九年天地主制及小地主制論ヲ公ニセリ

然レトモスミス派ノ自由貿易主義ニ大々的反對ノ聲ヲ揚ケテ其雷名ヲ恣ニ

シタル人ヲリスト(千七百八十九年ニ生レ)ト爲ス其著國家主義經濟學千八百四十一年出版ハ氏カ滿腔ノ經綸ヲ吐露シタルノ名著ニシテ氏ハ英國學派ノ個人主義世界主義ヲ排シテ國家主義ヲ唱ヘスミス派ノ交換價值ニ重キヲ措クニ反對シテ生産力ニ心ヲ注ク可キヲ說ケリ氏ノ言フ所ニ依レハ一國ノ富ハ交換價值ノ増加ニ在ラスシテ生産力ノ發達ニ在リ生産力中第一位ヲ占ム可キモノハ工ナリ工ハ農ナケレハ成立シテ進步セス而シテ一國ニ於ケル工業ヲ發達セシメ又之ヲ保持スルカ爲ニハ一時保護稅ヲ施テ外國ノ競爭ヲ防キ外國ノ競爭既ニ恐ルハニ足ラサルニ至リテ始メテ之ヲ廢止ス可シトス氏此說ヲ唱出スルヤ熱心ニ之ニ贊同スル者多ク顯ハレ爲ニ氏ヲシテ近世保護學派ノ創立者タラシムルコトヲナレリ而シテ又氏カ獨逸關稅同盟ノ成立ニ盡瘁シテ以テ獨逸帝國統一ノ基ヲ作り且獨逸鐵道ノ發達ニ助力シテ以テ同國經濟上ノ進步ニ大功績ヲ立テタルハ其學問上ニ於ケル功勞ニ比シテ優ルトモ劣ル可クモ在ラサルナリ最近時代ニ至リ經濟學ハ獨逸ニ於テ偉大ノ進步ヲ見ルニ至レリ是レ實ニ歷史學派ノ力ニ依ル歷史學派ナルモノハ英國學派カ經濟學ヲ論究スルニ主トシテ

抽象的演繹的ノ方法ニ依ルヲ非トシ經濟學ノ研究法トシテハ歷史ト統計ニ基ク所ノ歸納法ヲ用ユヘキヲ唱ヘ又彼學派カ經濟上ニハ時ト處ヲ論セス一般普通ノ自然法ノ存在スルカ如ク說明スルニ反對シ經濟界ニハ吾人ノ經驗ト觀察ニ依リテ認知シ得ル所ノ經驗法アルノミト論セリ然リ而シテ歷史學派ノ基ヲ確立シタル者ヲロッシェル(千八百十八年ニ生レ)ヒルズブラン(千八百二十八年ニ死ス)及ヒクニース(千八百二十一年ニ生レ)三氏ト爲ス就中ロッシェル氏ハ瞻頭徹尾歷史的研究法ニ依リ此學派ヲ大成シタルノ人ニシテ著書甚タ多シ其重ナルモノヲ舉クレ(一)經濟學全書千八百五十四年ヨリ同九十四年ニ亘リテ完成ナル全部五卷ヨリ第一卷ハ經濟學原論第二卷ハ農業經濟學第三卷ハ「商工業經濟學」第四卷ハ「財政學」第五卷ハ「救貧制度及救貧政策」ナリ獨逸經濟學史千八百七十四年出版「殖民地殖民政策及移住」千八百五十六年出版及ヒ政治學「千八百九十二年出版等即チ是ナリ次ニホルズブラン(千八百九十二年ニ生レ)及ヒ政治學「千八百四十七年出版」著アリ又クニース氏ニハ「歷史派經濟學」千八百五十二年出版及ヒ「貨幣及信用論」等アリ



一タヒ歴史學派ノ基開ケテヨリ以來獨逸ノ學風ハ忽然トシテ一大轉化ヲ來シ  
學者競フテ歴史ノ探究事實ノ討查ニ努メ微ニ亘リ細ヲ究メ亦從來ノ廣漠獨斷  
的ノ論調ニ似ス其如何ニ經濟學ノ發達ニ大功勞ヲ奏シタルカハ吾人ノ喋々ヲ  
待タスシテ明ナリ然リト雖モ其極動モスレハ歷史的歸納的ノ研究法ニ偏シテ  
抽象的演繹的ノ研究法ヲ輕視シ經濟學ヲ以テ單純ナル經濟史ノ趣アラシムル  
ニ至レリ

是ニ於テ乎此欠點ヲ矯正セントスルノ念ハ卓出セル經濟學者ノ頭上ニ浮ミ來  
レリ時ニ恰モ好シ方今ノ經濟組織ニ伴フノ病弊タル貸財ノ分配其宜シキヲ得  
ス貧者カ富者ニ抑壓セラレ、慘狀ハ亦獨逸ニ現出シ所謂勞動者問題ハ大ニ世  
人ノ注意ヲ惹クニ至リ而シテ一方ニ尙舊派學者ノ個人主義放任主義ヲ主張ス  
ル者アレハ他ノ一方ニ極端ノ社會主義ヲ唱道スル者アリ一新學派ハ此時運ニ  
際シテ歴史學派ノ欠點ヲ矯ルト同時ニ此大問題ヲ解釋スルノ任務ヲ以テ生レ  
タリ之ヲ名ケテ社會政策學派ト云ヒ又之ヲ呼テ國家社會主義派ト云フ蓋シ新  
學派ニ屬スル學者ハ概テ皆國家力進テ勞動者問題ノ解釋ニ盡力シ弱者タル勞

働者ヲ保護シテ文明ノ恩澤ニ浴セシムヘキヲ主張スレハナリ此派ハ實ニ經濟  
學界最近ノ學派ニシテ殊ニ學界ノ珠玉タル大學ノ教授カ大抵皆此學派ニ屬ス  
ルハ大ニ人意ヲ強フスルモノアリト謂ハサル可ラス是ニ於テ乎又此派ヲ呼フ  
ニ講壇社會黨ノ名ヲ以テスルモノアリ蓋シ反對者カ此派ハ大學ノ講壇ニ於テ  
社會主義ヲ講スルモノナリト批難シタルニ基ク

千八百七十二年此派ノ學者并ニ之ト意見ヲ同ウスル者相合シテアイゼナツハ  
ニ一大集合ヲ開キ其結果トシテ社會政策協會ト稱スル有力ノ協合組織セラレ  
爾來社會政策ニ關係アル種々ノ問題ヲ攻究シ其調査ヲ公ニシテ、在リトス若  
シ夫レ此學派全體ノ態度ヲ言ヘハ區々ノ相違ハ學者間ニ存在スト雖モ舊派ノ  
個人放任主義ニ偏セス又社會主義ノ極端論ニ與セス恰モ二者ノ中間ニ立テ彼  
ノ短ヲ棄テ此長ヲ採リ其力ヲ社會ノ改良ニ注クモノト謂フヘキナリ  
社會政策派ニ屬シテ獨逸經濟界現時ノ泰斗ト仰カル者ヲアドルフ、ワグネル  
及ヒグスタフ、シユモレルノ二氏ト爲ス

ワグネル(千八百三十一)年(生レ)ハ現ニ柏林大學ノ教授タリ其學說ハ社會政策主義ヲ以テ

一貫シ殊ニ國家カ一般ノ利益ノ爲ニ貨財ノ生産及分配ノ上ニ大ナル影響ヲ及  
 ホス可キヲ主唱スルハ誠ニ國家社會主義派ノ領袖タルニ恥ナスト謂フヘシ今  
 日ニ至ル迄氏ノ著述ノ公ニセラレタルモノハ「經濟學ノ基礎」千八百七十五年出  
 版及ヒ「財政學」第一卷ハ千八百七十一年乃至二年出版第二卷ハ一千八百七十  
 出版第三卷ハ千八百八十九年出版ヲ最モ重モナルモノトシ其他ニ「銀行論」千八  
 百五十七年出版「獨逸手形發行銀行法制度」千八百七十三年出版「最近時代銀價  
 ノ暴落ト我貨幣制度」千八百九十四年出版并ニ「シエーンベルロ氏ノ編纂ニ係  
 ル」經濟學全書中ニ掲ケタル「信用及銀行論」「保險論」「直接稅」「財政ノ組織及公債等  
 アリ

シユモルレル(千八百三十一年ニ生)ノ特色ハ經濟ヲ説クニ當リテ倫理道德ノコトニ重キ  
 ヲ措クノ點ニ在リ又其經濟史上ノ論文ハ氏ノ精細檢密ナル研究心ヲ證シテ餘  
 アリ其重ナル著書ハ「十九世紀ニ於ル獨逸小工業史」千八百六十九年出版「法  
 律ト經濟ノ根本問題ニ付テ」千八百七十五年出版「國家學及社會學ノ歴史」ニ付  
 テ「千八百八十八年出版」方今ノ社會政策及工業政策ニ付テ「千八百九十年出版」

等是ナリ

又ロレンツ、フオンシ、コクタイン(千八百九十五年ニ生ハ千八百四十二年ニ佛國規時  
 同九十年ニ死ス)ノ社會主義及共產主義ト題スル一書ヲ著シ其中ニ於テ早ク既ニ經濟學ヲ以テ  
 ノ社會主義ノ一タラシム可キノ意見ヲ述ヘリ氏ハ著書頗ル多シ只論ノ奇矯ニ  
 過タルヲ思トスルノミ氏ノ「財政學」ハ有數ノ名著ニシテ其他「行政學」「行政學及  
 行政法全書」「經濟學等」ヲ其著書ノ重ナルモノトス

シエツフレイ(千八百三十一年ニ生)ハ又經濟學界一方ノ雄將タリ其大著「社會團體ノ組織  
 及生活」四卷ヨリ成リ千八百七十五年乃至七十八年出版ハ「社會學」一ノ科學ト  
 シテ秩序的ニ論述セル獨逸最始ノ著書ナリ氏ハ又千八百六十七年「人間經濟ノ  
 社會的系統」ヲ公ニシテ千八百七十年ニ「資本主義ト社會主義」ヲ著シ方今ノ經  
 濟組織ノ長所及欠點ヲ指摘スルコト明細更ニ近時ニ至リ「租稅政策原理」千八百  
 八十年出版「強制的協同扶助組合」千八百八十二年出版「社會民主黨ノ前途絶望  
 ナルヲ論ス」千八百八十五年出版等ノ著アリ

ブレントノ(千八百四十年ニ生)ハ統計學ノ大家エムンスト、エンケルト相伴フテ英國ニ

研究旅行ヲ試ミ深ク同國ニ於ケル職工組合ノ狀況ヲ觀察シ歸リテ現時ノ職工組合ニ卷ヨリ成リ千八百七十一年乃至二年出版ヲ著シ忽チ其名聲ヲ揚ケタリ  
 爾來氏ハ熱心ニ所謂講壇社會主義ヲ唱道シ自由貿易派ヲ反駁スルコト極メテ痛切ナリ但シ氏ノ特色ハ勞働者ニ對スル國家的保護ヨリモ寧ロ勞働者自身カ自助自立ノ精神ニ依リテ組織スル所ノ職工組合ニ重キヲ措クニ在リ氏ニハ尙  
 「現行法制ニ於ケル雇傭關係」千八百七十七年出版、「現時經濟組織」ノ下ニ於ケル「勞働者保護」千八百七十九年出版、「強制的勞働者保險論」千八百八十一年出版等ノ著述アリ

以上舉ケタルノ外獨逸并ニ奧太利ニ於テハ經濟學ノ各部門ニ付キ各自其好ム所ニ分レ深奥ナル研究ヲ遂ケ其理論ヲ發達ニ寄與セル著名ノ學者殆ト屈指ニ暇アラズ今ハ讀者ヲシテ如何ニ獨逸ノ學界カ旺盛ヲ極ムルカヲ知ラシメンカ爲ニ是等學者ノ氏名ヲ列舉セントス蓋シ一人トシテ當代有數ノ大家若クハ有望ノ少壯學者ニアラサルハナシ但シ其中ニハ既ニ鬼籍ニ入りテ其名ヲ學史上ニ止ムルニ過サル者モ之アリト雖モ多クハ現存ノ人物ニシテ概テ職ヲ大

學ノ教授又ハ其他ノ高等教育事業ニ奉シツ、アルノ士ナリ即チフォン、マンゴルト、ヘルド、ノイマン、ロエス、レル、シュー、ン、ベル、ヒ、コン、ラ、イ、ド、メン、ゲ、ル、コ、ン、ザ、ツ、ク、ス、デ、イ、ツ、エ、ル、ク、ラ、イ、ン、ウ、エ、ヒ、テ、ル、デ、ユ、ー、リ、ン、グ、フ、ォ、ン、ボ、エ、ム、バ、ウ、エ、ル、ク、ウ、グ、ー、ゼ、ル、レ、ル、ハ、ン、セ、ン、マ、イ、ツ、ェ、ン、フ、ォ、ン、ミ、ア、ス、コ、ー、ス、キ、フ、ォ、ン、デ、ル、ゴ、ル、ツ、フ、ォ、ン、ヘ、ル、フ、ェ、リ、ツ、ヒ、ル、ラ、ン、ド、エ、ー、ヘ、ル、ヒ、ク、ナ、フ、ア、セ、ー、リ、ン、グ、ボ、ー、ル、エ、ム、ミ、ン、グ、ハ、ウ、ス、フ、ォ、ン、シ、ヤ、ル、ツ、ハ、ウ、ス、ホ、ー、フ、エ、ル、ス、テ、ア、ー、ダ、ビ、エ、ー、ヘ、ル、バ、ー、シ、エ、ー、ジ、エ、ー、ト、ベ、ー、ル、ナ、ツ、セ、レ、キ、レ、ス、ウ、ル、ト、シ、ラ、ウ、ト、フ、ォ、ン、カ、ウ、フ、マ、ン、マ、タ、ジ、ヤ、フ、リ、ー、ド、ベ、ル、ヒ、フ、ォ、ン、フ、ォ、リ、ボ、ウ、シ、ヒ、ベ、ル、ロ、ット、フ、ォ、ン、デ、ル、ボ、ル、グ、ト、ボ、エ、ー、メ、ル、ト、ラ、ン、グ、マ、イ、エ、ル、バ、エ、ル、ン、ラ、イ、テ、ル、ミ、ツ、ト、ホ、ツ、フ、ウ、ル、ミ、ン、グ、ハ、ウ、ス、ヘ、ル、ク、チ、ル、ヒ、エ、ル、ス、ト、ル、フ、カ、ウ、ツ、フ、ォ、ン、モ、ー、ル、ア、イ、ゼ、ン、ハ、ル、ト、シ、ヤ、ン、ツ、フ、ォ、ン、シ、エ、ー、ル、オ、ン、ケ、ン、フ、ォ、ン、イ、ナ、マ、ス、テ、ル、チ、ツ、グ、ラ、ス、バ、イ、レ、ス、コ、ン、ツ、ェ、ン、ラ、ム、グ、レ、ヒ、ト、レ、ー、ゼ、ル、ハ、ス、バ、ツ、ハ、ワ、ル、ケ、ル、ア、ド、レ、ル、デ、イ、ー、ル、エ、ン、ゲ、ル、ユ、ー、メ、リ、ン、フ、ォ、ン、ノ、イ、マ、ン、ス、バ、ラ、ー、ト、フ、ォ、ン、フ、ォ、ン、ツ、等、是、ナ、リ

如此専門學者彬々トシテ輩出セルノ結果ハシュー、ン、ベル、ヒ、氏ノ編纂ニ成レル  
 「經濟學全書」千八百八十二年初メテ二卷トシテ出版シ次テ千八百八十五年ニハ

増シテ三卷ト爲シ其後第三版ヲ重テ頃日又第四版出ントスト爲リ又コンラード  
 エルスタルレキシスローニンダ四氏ノ編纂ニ係ル國家學字彙二六卷ヨリ成リ  
 千八百九十年乃至九十四年出版ト爲レリ其ニ皆有有名ノ學者カ各自其題目ヲ分チ  
 テ得意ノ筆ヲ揮ヘル論文ノ彙集ナリ頃日又フランクエンシュタイン氏國家學全書ヲ  
 名目ノ下ニ經濟國法行政統計ノ諸科學ニ亙リ諸専門家ノ執筆ニ成レル合著  
 フ出版スルヲ企テ既ニ其中數卷ヲ刊行セリ

要之獨逸ノ經濟學者ハ眞ニ能ク學者タルノ品位ト態度トヲ維持シ最モ眞面目  
 ニ其研究ニ從事シツヽアリ彼ノ徒ニ淺薄ノ學識ヲ衍フテ空名ニ狂奔スルカ如  
 キハ之ヲ此邦ノ學者ニ見ル能ハサルモノ、如シ豈歎慕ニ堪ユ可シヤ

#### 第四款 共產主義(Communism)及社會主義(Socialism)

經濟學ノ歴史ヲ説クノ場所ニ於テ共產主義及社會主義ノ一斑ヲ記述スルハ稍  
 範圍外ニ涉ルノ嫌アリト雖モ事經濟學輒近ノ發達ニ大關係ヲ有シ獨逸ニ於ケ  
 ル社會政策學派ノ成立ハ蓋シ其影響ニ因ルト謂フヲ得ヘキヲ以テ聊カ此ニ合  
 セテ其大要ヲ紹介セント欲ス

夫レ共產主義ト云ヒ社會主義ト云フ其名ハ異ナレリト雖モ其根本ノ思想ニ至  
 リテハ二者相距ル遠カラズ彼等ハ共ニ方今ノ經濟組織ヲ非認シ之ニ代ヘテ新  
 タニ一ノ經濟組織ヲ建設セント欲スル者ナリ此新組織ノ下ニ在テハ各人ハ其  
 利己心ニヨリテ經濟セシテ社會全體ノ利益ニ基テ經濟シ且各人ハ平等ニ勞  
 働ニ從事シテ其生活ニ必要ナル欲望ヲ滿スノ權利ヲ有スヘキモノトス彼等ハ  
 等シク唱フラク方今ノ社會ノ病源ハ主トシテ土地及資本ノ私有ニ在リ從テ多  
 數人民ノ困弊ヲ除却スルニハ土地及資本ノ私有ヲ全廢シ之ヲ社會ノ共有ニ移  
 スニ如クハナシ而シテ各個人ハ此共有財産ヲ利用シ相協同シテ社會全體ノ爲  
 ニ生産ニ從事シ生産ノ結果ハ亦社會全體ノ所有ニ歸シ各個人ニハ其欲望若ク  
 ハ其捧ケタル勤勞ヲ標準トシテ貨財ヲ分配スヘシト是等ノ點ハ共產主義モ社  
 會主義モ共ニ一致スル所ナリ只共產主義ハ更ニ一步ヲ進メ新奇ノ教育及勞働  
 ノ任組ニ依リテ各人ノ能力并ニ其爲ス所ヲシテ全ク平等ナラシメ又土地及資  
 本ノミナラス一切ノ消費貨財モ亦之ヲ社會ノ共有ニ移シ(即チ全然各人ノ私有  
 財産ナルモノナキナリ)且社會各人間ニ貨財ヲ分配スルノ標準ハ各人ノ欲望ヲ

以テ之ニ充ツヘント爲ス然ルニ社會主義ハ單ニ土地及機械其他ノ生産的貨財ノ共有ヲ以テ足レリトシ又各人ハ其能力ニ應シ業ヲ分テ生産ニ從事シ而シテ生産ノ結果ハ各人ノ勞力ヲ標準トシテ公平ニ分配スヘシト爲ス換言スレハ彼ハ純然タル共有主義ナリ平等主義ナリ此ハ幾分財産ノ私有ヲ許シ且貨財ノ分配蓄積ニ於テ多少ノ不平等ヲ生スルモ之ヲ默認セントスルモノナリ如何ニシテ共產主義又ハ社會主義ノ想像スル社會ヲ現出スヘキヤ此方法ニ關シテハ彼等黨派ノ間ニ意見一ニ歸セス其穩和ナル者ハ唱フラタ方今ノ經濟組織ハ弊害年ヲ追フテ益々相加ハリ到底之ヲ維持スルコト能ハサルニ至リ其極自然壞敗ニ屬シ之ニ代リテ我黨ノ理想界實現セラレント其過激ナル者ハ之ニ反對シテ熱叫スラク我黨ノ主義ヲ實行スルニハ只腕力強制ノ手段ニ訴ヘ一舉現時ノ社會制度ヲ破壞スルニ在ルノミト

予ハ此ニ共產主義及社會主義ニ對シテ精密ナル批評ヲ試ムル能ハス只予カ把持スル意見ノ一斑ヲ示サンカ世人動モスレハ一概ニ是等ノ主義ヲ排斥シ去リテ願ミサルカ如キ風アルハ到底俗見タルヲ免レス否是等ノ主義ハ吾人カ眞面

### 商法 總則

法學士 杉本貞治郎 講述  
校 友 竹内喜一郎 編輯

余ハ本學年ニ於テ修正商法第一編總則及ヒ第二編會社ヲ講了スヘキコトヲ囑托セラレタリ乃余カ講セントスル所ハ商法ノ首部ナルヲ以テ本編ニ入ルニ先チ序言トシテ商法全體ニ關スル觀念ノ一二ヲ畧陳スヘシ

#### 第一 商法トハ何ソヤ

是先ツ起ルヘキ問題ナリ凡ソ學科ノ定義ハ其學科ノ全部ヲ習得シタル後ニ非サレハ十分ニ會得スルコト能ハス商法ハ何ナルヤノ問題ハ諸君カ商法ヲ學ヒ了リシ時ニ至リテ自ら解答セラルヘキナリ然レトモ今唯タ便宜ノ爲ニ一言セ

商法トハ商事ニ固有ナル法規ヲ謂フ而レテ商事トハ何ナルヤハ第一編第一章

ヲ講スル際ニ詳述スヘシ商事ニ固有ナル法規ト謂フハ本來特ニ商事ノ爲ニ設定セラレシ法規ノ義ナリ商事ニ關係アル法規中ニハ私法規定モアルヘシ又純粹ナル公法規定モアルヘシ然レトモ是等カ本來商事ノ爲ニ設定セラレシニ非サレハ商法ノ範圍ニ入ラサルナリ

夫レ法ハ人格ト人格トノ關係ヲ規定スルモノナリ現今ノ法ノ觀念ニ於テハ公法上ノ人格アリ私法上ノ人格アリ此等人格ノ間ニ各商事關係ヲ生スルヲ以テ商法ニモ亦公商法私商法國際商法ノ種別アリ商事ニシテ國際關係ニ屬スルモノヲ規定スル法規ハ之ヲ國際商法ト謂ヒ商事ニシテ公法關係ニ屬スルモノヲ規定スル法規ハ之ヲ公商法ト謂ヒ又商事ニシテ私法關係ニ屬スルモノヲ規定スル法規ハ之ヲ私商法ト謂フ此等皆廣義ニ於テ商法ト稱スヘキモノナリト雖モ余カ諸君ト共ニ講究セント欲スル所ハ寧ロ狹義ノ商法ニシテ所謂私商法ニ屬スヘキモノナリ

私商法ハ私人間ノ商事ニ固有ナル法規ナリ而シテ此法規ハ必スシモ盡ク一法典中ニ網羅セラレ、モノニアラス國ニ由リテハ全ク商法典ヲ制定セサルモノ

アリ然レトモ現今歐洲諸國ハ大抵皆商法典アリ此ノ如キ商法典アル國ト雖モ猶一法典ヲ以テ萬般ノ商事ヲ網羅シ盡スヘキニ非ス乃チ必スヤ幾多ノ特別法令ノ制定アリ學問上ノ用語トシテ商法ト稱スルハ是等萬般ノ商事規定ヲ抽象的ニ唱フルナリ又各國商法典ノ規定スル所ヲ見ルニ必スシモ常ニ私法規定ノミニアラス商事行政ノ規定アリ刑罰ノ規定アリ又國際商事ニ關スル規定アリ故ニ商法典ノ規定カ盡ク私商法ナリト謂フコト能ハス

法ニ制定法アリ慣習法アリ故ニ商法ニモ又制定商法アリ慣習商法アリ慣習法ノ存在及ヒ効力ニ關シテハ學者間ニ議論アル所ナリト雖モ商法ノ沿革及ヒ立法例ニ於テハ慣習法ハ特ニ重要視セラレ、ナリ故ニ商法ヲ講究セント欲スル者ハ商慣習法ニ注意スルコトヲ要ス

商法ハ私法ノ一部ニシテ民法ト相並ヒテ私人ノ法律關係ヲ規定スルモノナリ私人ノ法律關係ヲ民事ト商事トニ區別シ商事ニ關シテハ商法ヲ適用シ民事ニ關シテハ民法ヲ適用ス二法本來其適用區域ヲ異ニスルヲ以テ兩々各獨立セル法規ニシテ其間主從關係アルニ非ス又一ハ本則ニシテ他ハ例外規定ナリト云

フコトナシ唯商事ヲ普通民事關係ヨリ分別シテ特ニ之カ爲ニ法規ヲ設定シタルカ故ニ民法ニ對シテ之ヲ特別法ナリト云フ然レトモ其例外法ニ非ルカ故ニ其解釋モ亦例外法ニ於ケルカ如ク嚴正解釋法ニ隨フコトヲ要セス必要ナル場合ニ於テハ類推解釋ヲ用ユルモ亦妨ナシ

商法ハ商事ニ特別ナル法規ナリト雖モ其性質ニ至リテハ民法ノ規定ト甚タシク異ナルモノニアラス蓋シ往時ニ在リテハ民事商事ノ區別ナク共ニ同一法規ノ適用ヲ受ケタリシカ商取引ノ發達スルニ隨ヒ次第ニ特別ナル慣習ヲ作リ此慣習ハ遂ニ法トナリテ近世ニ至リテハ終ニ商事ニ法ノ獨立ヲ認許スルニ至レリ乃チ商事ニ關シテ特別ナル法規ヲ要スルニ至リシハ商事關係カ普通民事關係ニ比シテ特殊ノ發達ヲ爲シタルカ爲ナリ商事ニ適用スヘキ法規ハ必スシモ盡ク民法ノ規定ト異ナルコトヲ要セス且夫社會ノ進歩ハ獨リ商事ニ私セス民事關係モ亦日ニ月ニ進歩シ發達ス唯商事ニ比スレハ遲緩ナリト云フノミ夫レ遲緩ナリト雖モ亦漸次ニ進歩シ發達スルカ故ニ曾テ商事ニ關シテ設定セラレシ法規モ終ニハ普通民事ニモ亦適用セラル、ニ至ルヘシ此ヲ以テ古來民法規定ノ

商法規定ニ由リテ改廢セラレシモノ甚カラス之ヲ要スルニ商事ニ關シテ適用スヘキ法規ハ必スシモ盡ク民法規定ト異ナルモノニ非サルカ故ニ現今ノ立法例ハ多クハ商法典ニハ商事ニ特別ナル法規ノミヲ掲ケ民法規定ヲ補充的ニ適用スル主義ヲ採ルナリ現行商法第一條修正商法第一條

## 第二 商法ノ由來

夫レ商ハ人ト人トノ關係ヲ規定スルモノナルカ故ニ數多ノ人ノ互ニ相交際スルモノアルニ非スンハ法ノ存在スルコトナシ而シテ數多ノ人ノ互ニ相交際スルヤ必スヤ種々ノ關係ヲ生ス則又必ス一定ノ法則ノ相互間ノ關係ヲ規定スルモノ無カルヘカラス

人類ノ交際ニシテ最モ普通ニシテ又最モ必須ナルハ財産關係ニ如クモノナシ即有無相通スルノ道ナリ即交易ナリ交易ノ道ハ社會ノ進歩ト共ニ著ルンク發達シテ交換ヨリ賣買トナリ直接交易ヨリ商取引トナリ商業トナルナリ而シテ社會ノ法モ亦先ツ財産關係ニ發シテ遂ニ特ニ商法ナル法規ヲ分科スルニ至レリ

人類ノ其欲ヲ滿タスニ急ナルヤ甚矣彼等カ其家族關係ノ外ニ同類ヲ求メテ或ハ群棲シ或ハ交通スル所以ノモノハ皆此有無相通スルノ觀念ニ基カサルナシ此觀念ハ世代ト共ニ駸々トシテ增長シ山陵湖海モ又能ク之ヲ防クコト能ハス到處ニ其同類ヲ求メテ交通ス故ニ其商事ニ關スルノ法ハ亦山陵湖海ヲ距テサルノ傾アリ換言セハ商業ノ世界的性質アルニ依リ商法モ亦世界的ナリ故ニ商法ノ沿革ヲ討スルトキハ何國ノ商法ト雖モ必ス多少外國法ノ繼承ヲ見サルナシ而シテ文明諸國ニ行ハル、商法ハ現今ノ商業界ニ關係アル諸國民ノ共同シテ作成セシ所ニシテ現今ノ商業カ各國國內商業ニ非サルカ如ク其商法モ亦決シテ其國ノ特產物ニ非サルナリ

賣買交換等ノ普通ノ取引行爲ヨリ商取引ナル觀念ヲ分別スルニ至リシ時代ハ已ニ幾多ノ進化ヲ經歷セル時代ナリ之ト同シク取引關係ヲ規定スル法則モ其始ハ普通民事法中ニ混同セラレシカ後漸ク商法ナル一種ノ特別法トシテ獨立ナル領地ヲ占ムルニ至リシナリ  
今歐洲ニ於ケル商法發達ノ順序ヲ考フルニ大體左ノ如シ

## 一 民事法中ニ混同セラレシ時代

### 二 特別法時代

#### イ 商團體法時代

#### ロ 商事法時代

第一時代ハ則チ上古及中世ノ前半ニ行ハレシ所ニシテ羅馬法時代ハ尙此ニ屬ス羅馬法ハ實ニ世界ヲ征服セルト稱ス而シテ羅馬法ヲシテ此勢力ヲ成サシメタルハ一ニ「ユスゲンチウム」ノ効ナリ「ユスゲンチウム」ハ當時ノ世界法ナリ羅馬人ト交通セル各國民ノ交通ニ依リテ產出セラレシ所ナリ羅馬固有法ハ羅馬人以外ニ適用セラレズ而シテ又實際當時ノ世界的關係ヲ支配スルニ足ラザリシヲ以テ各外國ニ發達セル取引交通ノ法ハ各國民ノ交際ニ因リテ自ラ相融和シテ此ニ一ノ優勢ナル法規ヲ形成スルニ至レリ「ユスチニア」ン帝ニ至リテ此不文世界法ヲ編纂シテ遂ニ有名ナル世界的法典ヲ完成セリ羅馬法ハ此ノ如キ歴史ヲ以テ發達スルカ故ニ當時各國民ノ商取引ヲ支配スルニハ極メテ便利ナリ故ニ特ニ商事ニ關スル法規ヲ制定スルノ必要ナカリシナリ



然レトモ此有名ナル法律モ人類交通ノ日進ヲ逐フニ由ナク且ツ商取引ト最モ  
相容レサル寺院法ノ行ハレタルニ因リ西歷十一世紀ノ頃ニ至レハ各地商團體  
ニ於テ各自ノ取引ニ關シテ種々ナル慣習法ノ發達ヲ見ルニ至レリ是商法カ民  
事法中ヨリ分離スルノ導火タリシナリ此種ノ商慣習法ハ先ツ以太利ノ各市府  
ニ於テ發生シ遂ニ漸次市法又ハ商人組合ノ定款トシテ十二世紀半ヨリ漸ク成  
文ノ形體ヲ備フルモノアリ而シテ商品ノ輸出入ト共ニ當時以太利ノ諸市府ト  
交通セル中部歐洲ニ傳播セリ

以太利ニ於テ發生シタル商慣習ハ各市府隨意ニ其法規ヲ定メタルヲ以テ實際  
ニ於テハ實ニ區々タルモノアリシナリ況ンヤ之ヲ繼受セル歐洲諸國ニ於テオ  
ヤ此ニ於テ各國ニ商法統一ノ必要起レリ而シテ商法カ國法ノ一トシテ制定セ  
ラレレハ千六百七十三年ニ發布セラレシ佛國ノ「コードド、コンマルス」ヲ始トス  
以來十八世紀ヨリ十九世紀ニ至リ歐洲列國ニ法典編纂ノ氣運勃興シ各國相隨  
テ商法ヲ制定スルニ至レリ

我國商業ノ發達ハ之ヲ歐米諸邦ニ比スレハ甚遲緩ナリシヲ以テ王朝以來武家

# 海商法

法學士 加藤 正治 講述  
校 友 竹内喜一郎 編輯

## 第一章 海商ノ發達

凡ソ法律制度ノ發達ハ其國其社會ノ進歩開明ノ程度ニ伴フコトハ今日法律學  
者ノ一般ニ唱フル所ニシテ「ミュール、スマイル」氏ノ如キモ其著自動論ノ卷頭第  
一章ニ於テ政府ハ其社會ノ反影ナリト謂ヘリ海商法ノ發達ニ於テモ亦然リ其  
實際ノ事實タル海商ト消長ヲ共ニスルモノニシテ其組織ノ如何ニ依リテ種々  
異様ノ法律關係ヲ生スルモノナリ故ニ余ハ先ツ海商法ノ發達ヲ述フルニ先キ  
テ海商組織ノ發達ヲ見ント欲ス

海商ノ意識ニ付テハ後ニ又重キテ説述スル所アル可シト雖モ一言ニシテ之ヲ蔽ヘハ海商トハ航海ニ關スル商行爲ノ意ニ外ナラス商行爲ノ範圍ニ付テハ商行爲編ノ講義ニ譲リ茲ニ説述スル所ナシト雖モ抑モ商ノ本來ノ意識ハ營利ノ目的ヲ以テ物品ノ運轉ヲ媒介スル働キヲ言フモノナリ隨テ航海ノ事業カ商ノ爲ニ企テラルル本來ノ目的ハ低價ノ場所ニテ商品ヲ買入レ之ヲ高價ノ場所ニ輸送シテ賣却シ以テ其價格ノ場所ノ差異ヲ得テ以テ利益ヲ收メントスルニ在ルナリ故ニ之カ補助商トシテ商品運送ノ手段タル船舶及ヒ之ヲ運轉スル船員トヲ必要トス故ニ特種ノ發達タル保險契約ノ當事者ヲ除キテハ海商ノ事業ニハ常ニ三種ノ當事者ノ相牽連スルモノアルヲ見ル即チ積荷當事者荷送人荷受人單ナル積荷所有者共ニ皆包含ス、船舶所有者船船賃借人ヲモ包含ス、及ヒ船員是ナリ而シテ此等三當事者ハ同時ニ他ノ資格ヲ兼スルコトアルハ固ヨリニシテ古ヘニ在リテハ同一人ニシテ他ノ資格ヲ兼スル場合極メテ多ク例ヘハ船舶所有者自ラ積荷タル商品ヲ準備シテ發航スルカ如キ又ハ船舶所有者自ラ船長タルカ如キ比々皆是ナリ然ルニ今日ニ在リテハ此等三當事者各分科シテ

其相互ノ間ニ個々ノ權利關係ヲ生スルニ至リタルハ全ク商業進歩シ社會上并ニ經濟上ノ有様進歩發達シテ益々複雑ヲ極ムルニ至リタル結果ニ外ナラサルナリ而シテ其茲ニ至リタル事實ハ左ニ述ヘントスル所ノ歴史的ノ發達ニ徴スレハ最モ明カナリトス

歐洲ニ於ケル海商ノ發達史ヲ大別スレハ古代ト近代トノ二期ニ分ツコトヲ得而シテ二期ヲ分界スル特色ハ古代ハ全ク奴隸ヲ使用シテ海商ヲ營ミ近代ハ自由人ニ依リテ營マレタルコト是ナリ而シテ此二期ノ限界ハ「サラセン」人ノ權威最高ノ點ニ達セシ時代ニシテ即チ七世紀ヨリ十世紀ニ跨レル間ナリトス此間ニ於テ奴隸ニ依リテ行ハルル古代ノ營業組織ハ漸次消滅シテ之ト著シキ反對ヲ爲ス近代ノ營業組織ハ漸次發達シ來レリ茲ニ所謂近代トハ後ニ述フル所ノ中世ヲモ包含ス

古代ノ發達ニ付テ簡單ニ一言センニ其始メハ同シク組合組織ノ小營業ニシテ船舶所有者等ハ自己ノ計算ニ於テ商品ヲ買入レ換言スレバ自ラ物品賣買ノ商人ニシテ自己ノ船舶ニ自己ノ商品ヲ積入レ運送人ノ資格ト積荷所有者ノ資格

トヲ兼テ奴隸ヲ使役シテ海上遠征ヲ試ミ其商品ヲ賣却セテ以テ其控機心ヲ滿  
足セシメ歸途又彼地ノ商品ヲ買入レ之ヲ積ミ來テ賣却セテ以テ利益ヲ收ムルヲ  
常トセリ是レ其特色トス是レヨリ後進歩スルニ至テハ船舶所有者ハ自己ノ計  
算ニテ積荷ヲ準備スルコトヲ爲サシテ他人ノ商品ノ運送ヲ爲シ運送賃ヲ收  
メテ以テ利ヲ營ムニ至リ運送人タル船舶所有者ト品物賣買ノ商人タル積荷所  
有者トハ互ニ分科スルニ至レリ又航海ノ事業ニ付テモ其始メハ極メテ不特定  
ナル航路ニシテ遠征家若クハ探險家ノ意ノ向フ所ニ向テ航海セシナリ然ルニ  
稍々進ムニ隨ヒ特定ノ航路ニ因リ特定ノ航海ヲ爲スニ至リ航海業者モ亦始メ  
ハ一人若クハ數人ノ船舶ノ所有者ニ過キサリシニ遂ニハ法人ナル者之ニ代テ  
大企業ヲ營ムニ至リタリ而シテ古代ニ於ケル奴隸營業ノ狀態ニ在リテハ今日  
吾人カ船内ニ於テ見ル所ノ船員統御ノ特別ノ權力關係ヲ必要トセス主人カ奴  
隸ニ對スル統御ノ權ニテ足リシナリ又今日吾人カ船員ト船舶所有者トノ間ニ  
見ル所ノ雇傭關係ノ存在ヲ必要トセス唯事實上ノ奴隸使用ノ關係ヲ生シタル  
ニ過キササルナリ隨テ法律發達ノ沿革ヲ見ル上ニ於テハ船員ト船舶所有者トノ

關係ノ如キハ毫モ古代史ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得サルナリ故ニ海商并ニ之カ  
法律發達ノ歴史的觀察ノ起點ハ吾人ハ之ヲ古代史ニ求メスシテ中世紀以後ニ  
求ムヘキモノタルヲ信スルナリ  
中世紀以後ノ發達ヲ述フルニ先テテ船舶ニ付テハ二種ノ關係ノ存在スルコト  
ヲ注意セント欲ス二種ノ關係トハ一ハ債務關係ニシテ一ハ人的關係是ナリ債  
務關係トハ船舶所有者積荷當事者并ニ船員間ニ存スル契約上ノ權利義務ノ關  
係ヲ謂フモノナリ其性質タルヤ全ク私法の權利關係ニ屬シ若シ其債務不履行  
ノ場合ニ於テハ普通一般ノ私法上ノ救濟手段ニ因リテ之ヲ強ユルコトヲ得例  
ヘハ船舶所有者ニ對シテハ船舶ノ差押ヲ爲シ積荷當事者ニ對シテハ積荷ヲ留  
置スルカ如キ是ナリ而シテ人的關係トハ獨リ海法ノミニ特有ナルモノニ在ラ  
スト雖モ而モ特種ノ權力關係ハ船舶内ニ存在スル人々殊ニ船員等ニ對シテ存  
在シ身體上ニ對スル直接ノ統御權ノ保證セラル、ヲ見ル而シテ之カ強制手段  
トシテ許多ノ體刑アリ其性質ヤ公法的關係ニ屬ス而シテ海商其者ノ發達ハ獨  
リ右ノ債務關係ノミナラス特種ノ權力關係ノ發達ト相伴フモノニシテ海商ノ

發達ヲ十分ニ了得セント欲セハ右二者ノ關係ヲ區別シテ二者合セテ共ニ研究スルノ必要アリト雖モ吾人ノ目的トスル所ハ寧ろ私法的ノ債務關係ニアルカ故ニ今後透察セントスル所モ主トシテ此關係ニ在ルナリ

中世紀ハ又更ニ之ヲ別チテ二期ト爲スコトヲ得其第一期ニ於テハ積荷當事者ハ自ラ荷物ヲ導キ其船積陸揚等ニ付總テ指圖ヲ與フル爲ニ常ニ荷物ト共ニ船内ニ同乗スルヲ見ル之ニ反シテ第二期ニ於テハ積荷當事者ハ全ク其荷物ヲ運送シタル船舶所有者ニ委託シ荷物ト共ニ船内ニ同乗セザルナリ是レ二期ノ區別ノ要點ナリ前期ヨリ後期ニ移轉スル限界ハ何レノ地方ニ於テモ何レノ航海ニ於テモ斷乎タル區別アルニアラスシテ除々ニ轉化セシモノナルコトハ固ヨリ明白ナリト雖モ而モ強ヒテ言ヘハ十六世紀ニ於テ右ノ變革ヲ生シ以テ二期ヲ區別スルコトヲ得ルモノ、如シ而シテ其第一期ハ「サラセン」人カ商事情形ニ非常ナル威權ヲ弄セシ時代ヨリ始マレリト言ヒ得ルト同時ニ又西班牙ヨリ「アラビヤ」人カ驅逐セラレタルヲ以テ終ルト言フコトヲ得ルナリ而シテ新大陸ノ發見モ亦新时期ヲ發生スルニ非常ナル關係ヲ有スト雖モ而モ「サラセン」人ノ姿

縮ノ結果ハ地中海ト他ノ歐洲ノ海上トノ間ニ從來存在セシ區別ヲ消滅セシメ從テ海商ノ發達ヲ助ケタルノミナラス又海商法ノ規定ノ上ニモ非常ナル影響ヲ與ヘタリ

第一期 當時伊太利ニ於テ海商ニ最モ繁盛ヲ極メタル商業共和國ヲ觀察スルニ實ニ左ノ四個ノ異リタル海商組織ノ行ハレタルヲ見ル

- 一「アマルフィ」ノ組織 船舶所有者ト船員トカ組合關係ヲ爲シテ航海並ニ海商ニ從事シ所謂自己ノ荷物ヲ自己ノ船舶ニ載セテ海外貿易ニ從事スルモノ是ナリ隨テ他ニ特別ナル積荷當事者ナルモノ之レアラサルナリ
- 二「ビザ」ノ組織 船舶所有者ハ唯船舶ノ賃貸人ニシテ船舶所有者タル資格ニ於テハ毫モ表面ニ顯ハレズ船員ハ唯船舶ノ賃借人タル積荷當事者トノ間ニ關係ヲ有スルノミ

三「ムニス」ノ組織 船舶所有者積荷當事者共ニ船舶ノ上ニ存在ス而シテ船員ハ右兩者ノ連合體ニ隨從スルモノナリ而シテ其連合體ニ於ケル勢力ハ寧ろ常ニ積荷當事者ニ存セリ

四「ゲ」アノ組織 船舶所有者積荷當事者ノ兩者共ニ船舶ノ上ニ存スル點ハ「バ」ニスノ組織ト同一ナリト雖モ船員ハ獨リ船舶所有者トノ間ニ關係ヲ有セシノ右ノ組織タル史家ノ言ニ徴スルニ必シモ四個ノ共和國ニ全然特地的ニ發達シ終始一貫シテ同一ノ組織カ行ハレタルモノニアラサルモノ、如シ而シテ又之ト反對ニ右四個ノ組織カ發達ノ程度ニ隨ヒ一地ニ於テ悉ク順次ニ行ハレタルモノニモアラサルモノ、如シ然レトモ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ右記載ノ順序タル稍々海商發達ノ順序ヲ表示シ得ルモノタルヲ信ス即チ前キニ既ニ述ヘタル如ク古代ニ在リテハ奴隸ヲ使用シテ船舶ヲ運行セシメ所謂船員ナルモノ在ルコトナシ又船舶所有者自ラ積荷ヲ準備セシカ故ニ特ニ積荷當事者タルモノ之レアルコトナレ然ラハ即チ古代ニ於テハ船舶所有者一人ニシテ他ノ二當事者ノ資格ヲ兼テタルモノニシテ海商組織ノ構成分子ハ獨リ船舶所有者アルノミ然ルニ中世ニ入ルニ及ンテ奴隸營業廢セラレテ自由人營業之ニ代リ始メテ船員ナル一當事者ノ分科アリ是レ實ニ第一段ノ進歩ト謂フ可レ而シテ

「ア」マル「フ」イ「フ」組織ハ實ニ之ニ該當ス而シテ「ビ」ザ「フ」組織ハ今日ノ理論ヨリ察スレハ船舶ノ賃借人ハ船舶利用ノ點ニ關シテハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス(新商法第五七條參照ルカ故ニ船舶賃借人タル積荷當事者ハ寧ロ船舶所有者ノ中ニ包含セラレ理論上ニ於テハ「ア」マル「フ」イ「フ」組織ト殆ント異ルコト無キカ如シ然レトモ是レ唯第三者ニ對スル關係ニ於テ然ルノミ船舶所有者積荷當事者相互ノ間ニ於テハ彼等ノ資格ハ依然トレテ存在シ以テ相對立スルナリ然ラハ則チ「ビ」ザ「フ」組織ハ「ア」マル「フ」イ「フ」組織ニ對シテ稍一步ヲ進メタルモノト謂フ可シ而シテ「ベ」ニス「フ」組織ニ至テハ既ニ三當事者ノ表ハルハ「ラ」見ル是亦進歩ト謂フ可シ然レトモ其關係タルヤ極メテ特種ノモノニ屬マ今日ノ組織トハ之ヲ異ニセリ然ルニ「ゲ」ス「ア」ノ組織ニ至テハ殆ント今日ノ組織ト同一ナリ唯本期ノ特色タル積荷當事者カ船舶ノ上ニ同乘スル點ノ如キ其他後ニ述ヘントスル所ノ些細ナル點ニ付テ差異アルノミ然ラハ則チ右記載スル所ハ海商發達ノ順序ト見ルモ不可ナカル可シ然レトモ右ノ組織カ必シモ各地ニ順次行ハレタルモノト見ル可カラサルコトハ固ヨリ論ナシ

余ハ尙ホ進シテ右ノ各組織ノ實際上ノ事實ニ付詳述スル所アラントス

一「アマルフィ」組織 此組織ニ於テハ特種ノ積荷當事者ナルモノ存在セス船  
 船所有者并ニ船員間ニ組合關係ヲ有シ此組合ニ依リテ以テ海商ヲ營ミ海員以  
 下水夫ニ至ルマテ皆其企業者タリ故ニ船員等ハ船舶運轉ノ海上勞務ヲ取ル可  
 キノミナラス商業ノ目的物タル積荷ヲ準備スルノ權利否ナ義務ヲ有セリ其之  
 ヲ準備スルハ或ハ共同ノ計算ヲ以テ共同ニ之ヲ爲スコトアリ或ハ組合員各自  
 其持分ノ割合ニ應シテ之ヲ爲スコトアリ若シ船員等ニ於テ之ヲ準備スルノ資  
 力ヲ欠クトキハ資力ニ富メル船舶所有者ニ依頼シテ海債ヲ起シ以テ之ニ充ツ  
 ルコトヲ常トセリ之カ爲ニ船舶所有者ニハ自然強大ナル勢力ヲ有セシムルニ  
 至リ爾後益進シテ一個ノ船舶ノミナラス數多ノ船舶ヲ利用シテ之ニ向テ積荷  
 ヲ準備スルニ至リテハ航海ニ因リテ生ズル利益ノ大部分ハ實力ニ富メル船舶  
 所有者ノ手裡ニ歸シテ船員等ハ勞シテ益ナキ有様トナレリ而シテ組合ニ於ケ  
 ル商品ノ買入若クハ販賣等ニ總組合員ノ多數決ニ依リテ之ヲ行ヒ又船員等ノ  
 統御權モ此組合體ノ議決ニ依リテ之ヲ行ヘリ唯其決議ニ直接ノ利害ヲ有スル

當事者ハ之ニ與ルコトヲ得サリシノミ

二「ビザ」組織 「ビザ」ノ海商組織ハ今日吾人カ目撃スルモノト全ク反對ノ狀況  
 ニ在リ即チ現時ニ在リテハ船舶所有者カ積荷ヲ求メテ之ヲ募集シツ、アリ反  
 之「ビザ」ニ在リテハ積荷當事者カ船舶ヲ求メテ之ヲ借入レントスルナリ蓋シ企  
 業者カ連合シテ海上遠征ヲ企テ之ヲ成就スル爲ニ或ハ船舶ヲ買入ル、カ或ハ  
 船舶ヲ賃借リスルカヲ常トセリ而シテ之ニ要スル船員並ニ武裝等ヲモ共ニ雇  
 入レ船員ニハ一定ノ給料ヲ與ヘ且ツ或分量ノ商品ノ携帶ヲモ許セリ而シテ船  
 船所有者ト其所有者ナル資格ニ於テハ毫モ表面ニ立タス航海ノ方法並ニ船舶  
 殊ニ海員等ノ統御ノ權ハ總テ積荷當事者ノ連合體ニ屬セリ故ニ船舶所有者ト  
 積荷當事者トノ間ノ關係ハ船舶賃借契約ニシテ吾人カ今日目スル所ノ運送契  
 約ニハアラサルナリ而シテ運送契約ハ積荷當事者カ更ニ第三者ト契約ヲ結ビ  
 其者ノ荷物ヲ運送スル場合ニ於テノミ存在セリ

三「シニス」組織 十三世紀ニ於ケル「ベニス」ノ法源ノ規定スル所ノモノハ其海  
 商組織ニ付テ極メテ特種ノ性質ヲ示シ今日ノ理論ヨリ見レハ殆ント理論ヲ貫

徴セサルモノ、如ク然リ隨テ爲ニ大ニ理解レ難キモノアリ唯事實ノ儘ニ之ヲ  
 説明スレハ此組織ニ於テハ船舶所有者積荷當事者船員ノ三當事者斷然區別セ  
 ラレ各特種ノ權利義務ヲ有セリ船舶所有者ハ發航ノ以前ニ在テ先ツ履行ス可  
 キ一定ノ義務ヲ有セリ例ヘハ船舶ノ艤裝ノ如キ是ナリ然ルニ發航ノ以後航海  
 ノ途中ニ於テハ彼等ハ多ク其必要ヲ見サルナリ蓋シ船舶所有者ハ船内ニハ通  
 常唯值カニ一人ニシテ船員ノ仲間トシテモ二人以上ハ乗組ムコトヲ得サリ  
 其主意タル畢竟船舶所有者ヲシテ航海中非常ナル干渉ヲ與フルコト能ハサラ  
 シメンカ爲ナリ而シテ積荷當事者ト船舶所有者トノ間ニハ船舶貸借契約成  
 立シ而カモ船舶統御ノ權ハ船舶所有者ト積荷當事者トノ合議ニヨリ其多數決  
 ニ因リテ之ヲ決セリ又此決議ニ依リ時トシテハ其本來ノ航海區域ヲモ變更ス  
 ルコトヲ得タリ而シテ船員等ハ獨リ船舶所有者ニ對シテ直接ノ關係ニ立ツノ  
 ミナラス積荷當事者トノ間ニモ亦關係ヲ有シ積荷當事者ノ承諾ナクハ船舶  
 所有者ハ艤リニ船員等ヲ解僱スルコトヲ得サリシナリ而シテ船員等ノ給料ハ  
 積荷當事者ヨリ之ヲ支拂ハスレテ船舶所有者ヨリ之ヲ支拂ヘリ此他「ベニス」ノ

ハ申立ニ由リ又ハ職權ヲ以テ即時其手續ヲ再施スルコトヲ得ルハ、  
 破産手續ノ停止カ繼續スル間ハ第千〇四十九條ニ掲ケタル効力ヲ有ス第千〇  
 四十九條ニ曰ク「破産手續終結ノ後ハ辨濟ヲ受ケサル債權者ハ破産手續ニ由リ  
 テ確定シタル權利名義ニ基キ其債權者ニ對シ無限ニ行フコトヲ得」

第四節 破産機關

第一款 破産裁判所

破産事件ヲ管理スヘキ裁判所ハ金額ノ多寡ニ不拘債務者ノ住所若クハ營業所  
 ヲ管轄スル地方裁判所ト一定セリ裁判所構成法第二十八條ニ地方裁判所ハ破  
 産事件ニ付キ一般ノ裁判權ヲ有ストアリ又本法第九百九十七條ニ支拂停止ノ  
 届出ハ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ爲スヘシトアリ因テ破産事件ハ總テ債  
 務者ノ住所又ハ營業所ヲ管轄スル地方裁判所ニ專屬スヘキモノタルヲ知ル可  
 シ而シテ破産者ハ此管轄ヲ自由ニ變更シ若クハ破産事件終了セサル間ハ其住  
 所ヲ變更スルノ權ナシ其理由ハ破産者ハ破産事件起リタル以上ハ常ニ自己  
 ノ財産若クハ帳簿等ノ不明ナルモノアリ之ヲ説明スルノ義務アルノミナラ

ス裁判所ハ破産者ヲ監視シ且破産者ノ財産ヲ處分スルノ權アルモノナルヲ以テ破産者カ住所ヲ變史スル等ノコトアレハ此等ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルカ爲ニシテ畢竟破産事件ヲ圓滑且ツ迅速ニ處理セシカ爲ナリ蓋シ我破産法ノ如キ干渉主義ヲ採用スル國ニ於テハ裁判所ハ實ニ破産ノ主要ナル機關ナリ我破産法ニ於テハ破産處分ハ管財人債權者等ノ隨意ニ行フヲ得サルモノニシテ之ヲ行フニハ一ニ裁判所ノ認可ヲ經サルヘカラス今裁判所ノ重ナル職分ヲ示サンニ裁判所ハ破産宣告ヲ爲シ管財人ヲ選定シ債權者ニ債權ノ届出ヲ爲サシメ債權者集會ノ協議ヲ認可シ協議契約ヲ認可シ破産手續ヲ終了セシムル等ニシテ破産裁判所ハ破産機關中ノ最上位ニ位スルモノナリ

第二款 破産主任官及ヒ檢事

破産ハ家資分散ト異ニシテ其處分ニ關シテ機關ノ設アルコトハ前述セタル處ニシテ破産主任官及ヒ檢事モ亦其機關ノ一ナリ破産主任官ハ凡テノ破産手續ヲ指揮シ及監督スル職分ヲ有スルモノニシテ破産ニ關シ些細ナル事柄ヲ迅速ニ裁判スル爲メ特ニ任命セラル、モノナリ抑モ破産決定ノ如キ重大ノ關係ヲ

有スルモノニ付テハ合議的ノ裁判ヲ必要トスレトモ必スシモ其他ノ細末ノ事ニ至ル迄合議ヲ以テ之ヲ決定セサルヘカラサルモノトセハ其煩云フヘカラス爲ニ事務ノ滯滞ヲ來シ其他種々ノ不便アルヘキヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ主任ノ判事ヲ選ヒ破産事務ヲ取扱フコトヲ得セシメタリ蓋シ破産主任官ハ裁判所ト管財人トノ間ニ位スル機關ニシテ破産管財人ニ委スルニハ事重キニ過キ裁判所ヲシテ直チニ干渉セシムルニハ事輕キニ失スル等ノ事項ヲ處理スルモノニシテ破産決定書ニ由リテ任命セラル、モノナリ今破産主任官ノ主ナル職分ヲ舉クレハ

- (一) 債務者ノ爲メ商業帳簿ノ現狀ヲ認證スルコト(第一〇〇五條第三項)
- (二) 破産者及ヒ其家族ニ補助料ヲ與フルコト(第一〇〇七條)
- (三) 管財人ニ事務ノ分配ヲ命シ其行爲ヲ監督スルコト(第一〇一一條第一〇一二條)
- (四) 破産費用ノ支出額ヲ定メ支拂命令ヲ發スルコト(第一〇二〇條)
- (五) 破産ニ犯罪行爲ノ伴フトキハ之ヲ檢事ニ通知スルコト(第一〇二一條)

破産法



(六) 債権者集會ヲ召集スルコト第二〇三五條  
 (七) 破産ノ成績ヲ報告スルコト第一〇三七條  
 等是ナリ

第九百八十三條ハ其職掌ヲ大綱ヲ示セリ曰ク破産主任官ハ總テノ破産手續ヲ指揮シ及ヒ監督スルコトヲ要ス其命令ハ假執行ヲ爲スコトヲ得然トモ此命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スヲ得下之ヲ要スルニ破産主任官ハ裁判所ノ代理トシテ破産管財人ヲ管理シ且重大ナル事件ニシテ管財人ノ決ス可カラサルコトヲ裁判スヘク此主任官タルヤ通常ノ官吏ト異ニシテ財産ヲ債権者ニ分配スル爲メノ役人ナレハ之ヲ行フニ當リ法定ノ手續方法等ニ違背スルトアレハ爲ニ或ハ不法ノ取扱ト爲リ効ヲ奏セサルコトアリテ甚タ不都合ナル結果ヲ生スルニ至ル可シ故ニ其命令ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキコトハ爲リ居レリ然レトモ其命令ハ迅速ニ之ヲ執行セサレハ効ナキコトアル可キヲ以テ抗告アルニモ拘ハラヌ執行ハ假リニ之ヲ爲シ得ヘキコトハセリ  
 檢事ハ職トシテ破産ノ有罪ナルヤ否ヤ若シ有罪破産トスレハ詐欺破産ナルヤ

將タ過怠破産ナルヤヲ搜索スルノ必要アリ而シテ其搜索ノ爲ニハ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルノ權アリ第九百八十四條ニ曰ク檢事ハ破産者ノ問セラル可キ所爲ノ有無ヲ搜索シ且之カ爲ニ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルコトヲ得ト其他檢事ハ財産目錄ノ作成ニ立會ヒ第一〇一一條貸借對照表及ヒ報告書ヲ調査シ第一〇六條末段復權ノ申立ニ對シ意見ヲ述フルコト第一〇五十六條ノ職權ヲ有ス

第三款 破産管財人

破産者ハ破産ノ宣告ニ由リテ總テ財産上ニ關シテ無能力ヲ來スモノナレハ破産財團ハ他人ヲシテ之ヲ取扱ハシメサル可カラズ即チ管財人ノ選定アル所以ナリ破産管財人ハ破産財團ノ管理及ヒ換價ノ事ヲ主トシテ司ルモノニシテ破産機關中ノ重ナルモノナリ而シテ右財團ノ管理及ヒ換價ノコトハ裁判所自身ヲシテ之ヲ爲サシムルカ或ハ町村ノ吏員ヲシテ之ヲ爲サシムルカ或ハ債権者ヲシテ之ヲ爲サシムルカニ至リテハ立法上大ニ研究セサル可カラサルノ點ナリトス從來ノ身代限法ニ在リテハ區長又ハ戸長ヲシテ之ヲ司ラシム尤モ當時

破産法

ノ管財人ハ管ニ破産者ノ代理人トシテ之ニ立合ハセ其手續ヲ補助ヲ爲サシムルニ過キサリキ反之本法ニ於テハ別ニ管財人ナルモノヲ選定シ裁判所ハ常ニ之ヲ監督シ之ヲシテ其任ニ當ラシムルナリ又英國法ニ依レハ管財人ノ選定ハ全ク之ヲ債權者ノ集會ニ一任シ敢テ裁判所ノ干渉ヲ竣タサルナリ是レ各々其國ノ探ル處ノ主義ニ由リテ其規定ヲ異ニスルモノニシテ則チ英國ニテハ破産者ハ一旦破産宣告ヲ受タルトキハ其財産ヲ舉ケテ之ヲ債權者ニ與ヘ債權者集會ノ處分ニ放任スルカ故ニ管財人モ亦債權者ノ代理人トシテ働クモノナリ蓋シ英國ニ於テハ政府タルト人民タルト問ハス凡テ自ラ其事務ヲ經營セシムルノ主義即チ自治主義ヲ探ルニ基因スルモノニシテ其結果トシテ裁判所ハ唯訴訟ノ提起アリタル場合ニ於テノミ之ヲ裁判スルノ職權ヲ有スルモノト定ムルカ故ナリ然ルニ我國ニ於テハ破産處分ヲ以テ債權者ニ一任スルトキハ公平均一ノ處分ヲ望ム能ハストシ裁判所ヲシテ常ニ之ヲ監督セシメ管財人ナルモノヲ選定シ法律ニ關スル事項以外ノコトヲ爲サシムルモノナリ故ニ我國ニ於テハ管財人ハ英法ノ如ク債權者ノ代理人ニモ在ラス又從來ノ身代限法ノ如ク破産

者ノ代理人ニモアラヌレテ全ク裁判所ノ代理人ナリトス  
右ノ如ク破産管財人ハ裁判所ノ代理人ナルカ故ニ其職務ヲ行フニ當リテハ他ノ代理人ト同一ノ責任ヲ負擔スルモノナリ則チ破産管財人ノ其職務ヲ行フニ付テハ商法第三百四十一條末項ニ依リ至重ノ注意ヲ爲スノ義務アリトス隨テ微細ノ過失ニ付テモ尙其責ニ任セサル可カラス而シテ管財人數名アル場合ニハ裁判所ニ於テ各管財人ヲシテ特ニ事務ヲ分擔セシムルノ委任ヲ爲サル以上ハ協同シテ其責任ヲ負擔セサル可ラス是レ第一千一條ノ規定スル處ナリ曰ク「管財人ハ其行爲ニ付テハ代理人ト同一ノ責任ヲ負フ若シ管財人二人以上アルトキハ協同ニ在ラサレハ行爲ヲ爲ス但シ破産主任官カ或行爲ニ付キ各個ニ特別委任ヲ與ヘタルトキハ此限リニ在ラスト此條ニ依レハ破産管財人ハ各自ノ間ニ事務ノ分配ヲ爲スヲ得スシテ其責任ハ連帶ニ之ヲ負擔ス可キモノナレハ協同ノ名義ニテ之ヲ行ヒタルモノニアラサレハ其行爲ハ無効ナリ是レ事ヲ丁重ニ行ハシメ決シテ疎畧ノ舉ナカラシメンカ爲ナリ然リト雖モ何レノ場合ニ於テモ共同セサレハ事ヲ行フヲ得ストモ徒ニ破産手續ヲ遲延シ何等

ノ利益ナカル可キヲ以テ此ノ如キ場合ニハ破産主任官ハ特別ノ委任ヲ與ヘ各  
 管財人ヲシテ獨立シテ事ヲ處理セシムルヲ得セシム而シテ破産主任官ハ破産  
 裁判所ヲ代表スルモノナレハ破産管財人カ其委任行爲ヲ實行スルニ付テハ常  
 ニ破産主任官ノ指揮監督ヲ受ケサル可カラズ若シ破産管財人ノ行爲又ハ決斷  
 ニ對シ異議アルモノハ先ツ破産主任官ノ決定ヲ受ク可ク尙之ニ不服ナルトキ  
 ハ破産裁判所ニ抗告ヲ爲スヲ得ヘシ但シ此抗告ハ異議ノ申立人ハ勿論被申立  
 人即チ管財人モ亦之ヲ爲スヲ得ヘシ第十條ニ曰ク管財人ハ破産主任官ノ  
 監督ヲ受ケ且其指揮ニ隨フノ義務アリ若シ管財人ノ行爲又ハ決斷ニ對シテ異  
 議ヲ述フルモノアルトキハ破産主任官命令ヲ以テ之ヲ決定ス此命令ニ對シテ  
 ハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スヲ得ト在リ  
 破産管財人ハ破産主任官ノ指揮ヲ受ケテ働ク裁判所ノ代理人ニシテ其職務ハ  
 法律カ付與シタルモノナレハ管財人ハ其勤勞ニ對シ報酬ヲ受クルノ權利アリ  
 而シテ其額ヲ定ムルノ標準ハ商法施行條例第四十三條ニ規定セル處タリ曰ク  
 破産管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應

シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其割合ヲ以テ之ヲ支拂フ可シト在リ而シテ  
 此報酬ハ財團中ヨリ第一ニ支拂ヲ受クルノ權利アルモノトス第一〇〇九條是レ  
 其行ヒタル職務ニ對シテ留置權若クハ先取特權ヲ有スルモノナレハナリ此ノ如  
 ク破産管財人ハ權利ヲ有スルト同時ニ之ニ伴フ義務アリ即チ管財人カ其管財  
 中破産者ニ處罰セラル可キ行爲アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ破産主任官ニ  
 届出テサル可カラズ而シテ主任官カ其通知ヲ受ケタルトキハ檢事ヲシテ破産  
 ニ關スル犯罪ヲ調査シ起訴ノ手續ヲ爲サシムル爲メ之ヲ檢事ニ通知セサル可  
 カラス如斯管財人カ破産主任官ニ通知ヲ爲ス可キ義務アルハ破産ニ關シ犯罪  
 事實ヲ發見シタルトキニ限ル通常ノ犯罪ヲ發見シタレハトテ此義務アルコト  
 ナシ

裁判所カ管財人ヲ選定スルニハ如何ナル方法ニ由ルカハ第八條ニ規定セテ  
 曰ク破産管財人ハ破産裁判所ニテ豫メ備ヒ付ケアル名簿ノ中ヨリ一事件毎ニ  
 之ヲ選定ス可キモノトストアリ而シテ破産管財人ノ名簿ヲ作ルニハ先ツ破産  
 管財人タル可キモノヲ任命セサル可ラス之カ任命ヲ爲スノ權ハ司法大臣ニ屬

商法施行條例第三十五條ニ曰ク「司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聞キ其所轄地方ノ需用ニ應ジテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ由リテ破産管財人名簿ヲ作ル可シト即チ地方裁判所ハ司法大臣ヨリ任命サレタル破産管財人名簿ニ記載シ破産者アル毎ニ此名簿中ヨリ自由ニ選擇シ之ヲシテ其破産管財人タラシムルモノナリ故ニ破産管財人タルノ資格ハ司法大臣ノ命令ヲ受ケタルトキヨリ獲得シ毫モ破産處分ニ關係シタルコトナキモ破産管財人タルヲ妨ケス如斯破産管財人ノ選定權ニシテ既ニ裁判所ニ在ル以上ハ其管財人ノ選定換テ爲スモ裁判所ノ權内ニアリト云ハサル可カラズ例ヘハ管財人カ破産者ト親族ナルカ又ハ其他忌避ス可キ事柄アリト認メタルトキハ他ノ管財人ヲシテ之ニ代ラシムコトヲ得ヘシ商法施行條例第四十一條ニ曰ク「破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可カラスト認ムル時ハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ司法大臣ニ上申ス可シ前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及セ義務ヲ有ストアリ又同條例第四十二條ニ曰ク「職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財

人職務ヲ解ク時ハ破産裁判所ノ公廷ニ於テ其理由ヲ附シテ之ヲ言渡ス可シト如此破産管財人ハ豫メ司法大臣ノ命令ニ因リ公吏タル身分ヲ有シ且ツ裁判所ノ選定ニ因リテ其職務ヲ行フモノナリト雖モ其職務ヲ取ルノ前ニ當リテハ鑑定人若クハ證人ト同様ニ宣誓ヲ爲サハル可カラサルコト、セリ商法施行條例第三十九條ニ曰ク「破産管財人ハ其職務ニ着手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執行コトヲ宣誓ス可シト此規定タル予報ノ下解ニ苦ム所ナリ若シ宣誓セサレハ職務ヲ執行セシムルコトヲ得サルカ如キ不信用ノ者ハ何ノ必要アリテカ豫メ管財人ト爲ストヲ要センヤ斯ルモノハ寧ロ管財人ト爲サ、ルヲ宜シトス既ニ管財人ノ資格アリト認メテ之ヲ管財人ト爲シ置ク以上ハ宣誓ヲ爲サシメテ其職務ヲ執ラシムルハ豈謂ハレナキ沙汰ノ限リニアラスヤ  
 破産裁判所カ破産管財人ヲ選定スルニハ必スシモ一名ニ限リタルモノニアラス其事件ノ難易ニ從ヒ或ハ之ヲ數名ト爲スヲ得ヘキハ第十條ノ示ス處タリ又管財人ノ任期ハ草案ハ之ヲ五年ト定メタルモ確定法律ハ之ヲ削除シ施行條例ニ於テ之ヲ三年トセリ施行條例第三七條其期限ノ起算點ハ管財人名簿作製

ノ日ナリトス而シテ破産管財人ハ一旦選定セラレタル以上ハ正當ノ理由アル  
ニアラサレハ其選定即チ職務ヲ行フコトヲ辭スルヲ得ス(施行條例第三八條)  
又管財人司法大臣ノ命令ヲ拒ムコトヲ得ス同條第三六條)

#### 第四款 破産者及ヒ債權者

破産者ハ債權債務ノ關係ヲ最モ能ク知了スルモノナルカ故ニ其關係ヲ明瞭ナ  
ラシムル爲ニ管財人ノ事務ヲ補助セシムルコトアリ是レ破産者ノ以テ破産機  
關ノ一ト爲ス所以ナリ

破産者カ破産機關トシテ働ク職分ハ管財人ノ職務ヲ補助シ(第一〇一二條第二  
項)管財人カ營業ヲ施行スル場合ニ當リテ財團ニ屬スルモノヲ營業外ニテ賣却  
セントスルトヤ意見ヲ述ヘ(第一〇一七條第二項)破産主任官ノ訊問ニ對シテ答  
辨スルコト(第一〇二二條)并ニ調査會及ヒ債權者集會ニ於テ意見ヲ述フル等ナ  
リトス(第一〇二五條第一〇三五條)

債權者ハ破産宣告アルヤ個々ニ訴訟執行等ヲ爲スヲ得ヌ唯各自ニ破産處分ニ  
關係スル場合ハ破産ノ申立ヲ爲シ債權ノ届出ヲ爲シ債權調査會ニ列席スル等

ノミナリ其他ノ點ニ於テハ團體ヲ組織シ團體ノ意思ニ因ルニアラサレハ事ニ  
當ルコト能ハス即チ多數決ニ依リテ事ヲ處理スルノ外途ナキナリ而シテ破産  
機關トシテ其團體カ執ル處ノ職分ハ債權者集會ニ於テ議決ヲ爲シ協諾契約第  
一〇三〇條ニ承諾ヲ與ヒ(第一〇二條以下)支拂猶豫ニ承諾ヲ與フ(第一〇五九條  
以下)等ナリ其他債權者ニ付キテ研究ス可キコト許多アルヲ以テ債權者ニ付  
テハ更ニ章ヲ設ケテ講述ス可シ

#### 第三章 破産ノ効力

破産ノ効力ハ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得曰ク破産者ノ身體ニ及ホス効力曰  
ク破産ノ財産及ヒ取引並ニ及ホス効力はナリ  
**第一節 破産者ノ身體ニ及ホス効力**  
破産者ノ身體ニ及ホス効力ハ一言以テ之ヲ掩ヘ公權私權ヲ剝奪シ以テ破産  
者ニ加辱ノ制裁ヲ加フルコトナリ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其復權ヲ得ル迄  
ハ帝國議會ノ議員又ハ裁判官辯護士タルヲ得タル等如ク公權ヲ剝奪セラル可  
シ蓋シ此等ノ制裁ニ付テム他ヲ法律ヲ以テ之ヲ規定セラル以テ商法中ニ入之

ヲ規定セシ商法中ニ規定セラルモノハ私權ノ喪失ニシテ殊ニ商事ニ關スルモノナリトス(第一〇五四條)曰ク破産宣告ヲ受ケタル債務者又ハ破産セタル會社ノ無限責任社員ハ復權ヲ得ル迄ハ取引所ニ出入スルコト仲立人トナリ合名會社若クハ合資會社ノ社員トナリ又ハ株式會社ノ取締役トナルコト清算人破産管財人若クハ商事代人ノ職ヲ取ルコト商業會議所ノ會員トナルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得ストアリ此等ノ事項タルヤ商業上ニ於テ何レモ信用ヲ主トシテ行フモノナルカ故ニ現ニ商業上ノ信用ヲ害シ且職名ヲ受ケタル破産者ニシテ此ノ如キ事業ニ從事スルコトヲ得セシメハ信用ヲ保ツコトヲ得スシテ遂ニ貴重スル事業ノ發達ヲ妨害シ經濟上社會上ノ擾亂ヲ來タスノ弊アルヲ以テナリ然レトモ破産者ハ法律ヲ以テ明定シタル場合ニアラサレハ公權タルト私權タルトヲ問ハス之ヲ失フモノニアラス故ニ法律ニ明定ナキ場合ハ無能力者ト看做ス可カラス例之破産者ニ於テモ後見人若クハ親族會議ノ議員タルノ權利ヲ保有スルカ如シ何トナレハ破産者ハ必スシモ不品行無能力及ヒ不正直ヲ證スルモノニアラスシテ唯商人ノ不幸ヲ蒙リタルニ基因スルコトアレ

ハナリ

## 第二節 破産者ノ財産及ヒ取引上ニ及ホス効力

破産者ノ財産及ヒ取引上ニ及ホス効力ニ付テ更ラニ細別シテ破産宣告前ノ効力ト破産宣告後ノ効力トナスコトヲ得ヘシ

元來破産ハ決定ヲ得テ之ヲ宣告ス可キモノニシテ其宣告ナケレハ何人ト雖モ破産者ト云フヲ得ス隨テ宣告アリテ始メテ破産ノ効果ヲ生ス破産ナルモノハ始メテ此時ヲ以テ法律上ニ存スルモノナリ然ルニ破産ノ効力カ其宣告前ニ及フハ如何ナル理由ニ因ルヤト云フハ破産ハ右ノ如ク宣告ヲ要スルハ單ニ形式上之ヲ必要トスルノミニ過キサレトモ其實質ハ支拂停止アレハ足レリ加之支拂停止ト破産宣告トハ其間多少ノ時日ヲ經過スルモノナレハ破産者ハ此時間ヲ利用シテ破産處分ノ目的ヲ空シカラシメ以テ債權者全體若クハ其一部ニ損害ヲ加ヘ或ハ債權者ノ一部ヲ利シテ一部ヲ害スルコトナキニアラス故ニ之ヲ防カン爲メニハ破産ノ効果ヲ其宣告前ナル支拂停止ノ日ニ及ホスコトヲ要ス然レトモ支拂停止アレハ破産宣告必ス之ニ隨フテ起ルモノト推定セサル可カ

ラス破産ヲ喚起セサル支拂停止ハ實テ破産上ノ効果ヲ生スルモノトシテ得テ明文ヲ以テ其効果ヲ之ニ附スルモハ例外ナリトス手形法ノ如シキモ其旨ハ破産ノ效果カ支拂停止ノ日ニ溯ルノミナラス支拂停止前ニ迄及フハ如何ナル理由ニ因ルヤト云フニ支拂停止前ト雖モ債務者ニ於テ尙ホ支拂能力アル外觀ヲ裝ヒ其實既ニ破産ノ境遇ニ居ルモノモ巧妙ナル手段ヲ以テ僅カニ破産ヲ免レ居ルコト通常ナル場合アリ是レ支拂能力ヲ隱秘スルモノナレハ之ニ自由財產處分權ヲ許シ債權者ノ損害トナラシム可カラス故ニ法律ハ其支拂停止前ト雖モ破産ノ効果ノ溯ルヘキ時ヲ明定シ以テ債權者ノ損害トナルヘキヲ豫防シタリ

此時日ハ舊法及ヒ諸國法典ノ多クハ支拂停止前十日ナリト定メタリト雖モ改正商法ニハ三十日ト定メタリ  
破産ノ效果カ其宣告前何日迄モ及フモノトセハ債權者ハ常ニ不安ノ念ヲ抱カサルヘカラス故ニ其效果ハ破産宣告前債務者ノ全ク安全ヲ保チ支拂停止ノ如キ未タ毫モ期スル所アラサリシ時ニ迄溯ラシメサルヤ明ナリ一旦破産シタル

ノ故ヲ以テ何時迄モ其效果ヲ及ホシテ取引ヲ無効トセハ全ク其正ヲ失ヒ且又實際行フヘカラサル事タレハナリ

第一欸 破産宣告後ノ効力

破産宣告ノ決定アルヤ其決定ニヨリ破産者ノ財産及ヒ取引上ニ左ノ効力ヲ生ス

- 第一 破産者ヲシテ財産上ノ無能力者タラシムルコト(第九八五條)
- 第二 債權者ハ各別ニ獨立シテ債務者ニ對シテ訴訟及ヒ執行ヲ爲スヲ得サルコト(第九八七條)
- 第三 破産者ハ破産宣告ニヨリテ自己ノ負ヒル債務ノ期間ノ利益ヲ失フコト(第九八八條)
- 第四 破産者ノ爲ニ利息ノ生加ヲ停止スルコト(第九八九條)
- 第五 債權者ハ登記ヲ爲スヲ得サルコト(第九九二條)
- 第六 未タ履行セサル雙務契約ハ之ヲ解除シ得ルコト(第九九三條)
- 第一 破産者トシテ財産上ノ無能力者タラシムルコト

破産法

凡ソ破産者ハ己レノ負擔シタル義務ヲ盡サ、ルモノナレハ尙モ自己ニ屬スル財産アレハ之ヲ浪費シ或ハ隱匿シ其他種々ノ惡謀ヲ運レテ債權者ヲ害セントスルハ通常ナリ是レ第九百八十五條第一項ニ於テ破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財産ヲ占有セ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フト規定シタル所以ナリ是ヲ以テ破産者ハ尙未成年者浪費者ノ後見人ニ於ケルト同ク管財人ヲシテ其財産ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシメサルヘカラス右ノ如ク破産者ハ財産ヲ處分スル能力ヲ失フモノナルカ故ニ其必然ノ結果トシテ財産上ニ於ケル獨立ノ處分即チ契約ヲ取結ヒ支拂ヲ爲シ或ハ之ヲ受ケ又ハ財産ヲ賣却シ貸貸スルカ如キ凡テ法律行爲ヲ爲ス能力ヲ失ヒ併セテ訴訟能力ヲ失フコト當然ナリ蓋シ訴訟上ノ行爲ハ財産處分ノ一端ナレハナリ第九百八十五條第二項第三項故ニ若シ他人カ原告トナリテ破産者ヲ訴フルトキハ管財人ヲ被告ト爲サ、ルヘカラス又破産者ヨリ他人ニ對シテ訴訟セントスルトキハ管財人ヲ原告ト爲サ、ルヘカラス又破産者執行ノ場合ニ於ケルモ同一理ナリトス若シ破産宣告前ヨリ訴ノ存スルトキハ管財人原告トナリ若クハ被告トナリ以テ其

訴ヲ繼續セサルヘカラス唯茲ニ注意スヘキハ破産者ノ訴訟能力ヲ失ヒタルハ單ニ財産上ニ關レテノミ然ルヲ以テ財産ニ關セサル訴訟例之夫婦離別ノ訴名譽回復後見解除ノ訴ノ如キハ破産者自ラ原告トナリ若クハ被告トナリテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリトス是レ第九百八十五條第三項ニ破産者ノ動産不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ云々ト規定セアリテ動産不動産ニ關セサルモノハ此限ニアラストノ意味ヲ暗ニ云ヒ顯ハシタルヲ以テ知ルヘシ然レトモ訴訟中或ハ破産者ノ身分ニ關シ且又財産ニモ關シ疑義ヲ生スル場合ナキニアラス例ヘハ破産者ニ對シ養育料ノ請求ヲ爲シ若クハ被後見人ヨリ財産引渡ヲ請求スルノ訴訟又ハ夫婦共通財産ニ關スル訴訟ノ如キ是レナリ此場合ニハ破産者ノ身分ト財産ニ影響ヲ來スモノナリト雖モ其訴訟ノ目的破産者ノ財産ニ關係ヲ及ホシ之ヲ増減スルノ効アルトキハ管財人ニ對シ之ヲ提起セサルヘカラス何トナレハ是等ノ場合ニアリテハ其訴訟破産者ノ身分上ニ關スルモノナキニ在ラスト雖モ訴訟ノ目的ハ財産ヲ處分スルモアラサレハ之ヲ達スルヲ得サレハナリ



重罪輕罪及ヒ違警罪事件ノ公訴ハ破産管財人ヲ審理ニ附スルコトナク罰金料ヲ附スヘキモノト雖モ直ニ破産者ニ對シテ提起スヘキモノト決定セサルヘカラス何トナレハ公訴ニ於テハ只有罪ナルヤ否ヤヲ見ルニアリテ財産上ノ無能力者タルト否トヲ問フヘキモノニアラサレハナリ但其犯罪ノ被害者之カ損害賠償ヲ請求スルトキハ管財人ヲシテ其訴訟ヲ受ケシム可キモノトス之レ其裁判ヲ以テ債權者全體ニ對スル異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得セシメシカ爲ナリ若シ管財人事件ノ爲ニ召喚セラレサルトキハ其裁判ハ假令破産者ニ對シテ効力アルモ破産財團ニ對シテ其執行ヲ及ホスコトヲ得サルヘシ

破産者ハ其財産ヲ管理スルノ權利ヲ失ヒタルトキト雖モ破産者ニ對シテ手形ノ拒證書ヲ送達スルコトハ之ヲ爲シ得ヘキナリ之レ手形所持人ヲシテ其權利保全ノ所爲ヲ行ハシムルニ過キスシテ其所爲ヲ以テ第九百八十五條ニ所謂訴訟又ハ執行ノ方法ト混同ス可カラサルモノナレハナリ

終リニ一言ス可キコトアリ他ニアラス第九百八十五條第二項ノ其他凡テノ權利行為ハ云々當然無効トストノ文字ハ極メテ之ヲ狹隘ニ解セサル可カラサル

トナリ何トナレハ破産者ハ假令破産手續ノ繼續中ト雖モ車ヲ轆キテ其口ヲ糊スルカ如キ行為ハ元ト權利行為(新民法草案ニ所謂法律行為)ニ外ナラスト雖モ此ノ如キコトヲ尙ホ爲ス能ハサル理由アラサレハナリ故ニ茲ニ所謂權利行為ナル文字ハ自己ノ財産ニ關スル權利行為ト稱シ勢力其他財産ニ關セサルコトハ之ヲ包含セサルモノト解釋ス可シ何トナレハ破産者ハ權利行為ヲ無効トスル所以ハ畢竟破産者ハ財産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失ヒタル結果ニ依ルモノナケレハナリ

第二ニ債權者ハ各別ニ獨立シテ債務者ニ對シテ訴訟及ヒ執行ヲ爲スヲ得サル事及ヒモコト團體ノ決議ニ因ル可キコト對シテ訴訟及ヒ執行ヲ爲スヲ得サル破産宣告以後ハ債權者ノ別個ノ訴訟之ヲ中止ス即チ債權者ハ各別ニ破産者ノ財産上ニ執行ヲ施行スルヲ得サルヲ議ス(第九八七條此原則ハ破産者ノ訴訟能力ヲ失ヒタルヨリ生ズル結果ナリ)トハ前ニ説明シタル處ナリ而シテ尙ホ左ノ二個ノ理由ニ基テ訴訟費用ヲ免ルル可キ訴訟費用ヲ免ルルノ便

(一) 訴訟手續ノ煩ヲ省キ及ヒ破産財團ヲ以テ充ツ可キ訴訟費用ヲ免ルルノ便

重アルコトハ、債權者及債權者全體ヲ害セシムル者便宜アルコト換言セハ  
 (二) 一人ノ債權者ニ爲シ債權者全體ヲ害セシムル者便宜アルコト換言セハ  
 破産財團ハ之ヲ平等ニ債權者ニ配當スルモノナラズ以テ各債權者カ財團  
 中ニ係リ請求スルトキハ數多ク強制執行相衝突等分配ノ目的ヲ水泡ニ  
 歸セシムルニ至ルヲ以テ之ヲ妨クルノ便宜アルコト也  
 是ヲ以テ法律ハ破産者ノ財産ヲ取扱フノ權利ヲ破産管財人ニ委任シテ其人ニ  
 起訴受訴等一切ノ訴訟ヲ爲スノ權利ヲ有セシム第九八五條第三項但シ破産者  
 ト雖モ參加人トシテ訴訟ニ參加スルコトハ爲シ得サルコトニアラス裁判所ノ  
 許可ヲ得レハ何時ニテモ訴訟ニ參加スルコトヲ得ヘキナリ裁判所ハ其參加カ  
 破産者ノ爲ニ眞ノ利益ナク却テ建設ノ弊風ヲ誘導スルカ如キコトハ認ムルニ  
 於テハ其參加ヲ許ササルコトアル可シ要スルニ參加ヲ許スト否トハ裁判所ノ  
 權内ニアリテ裁判所ハ狀況ノ如何ニ隨ヒ許否ノ權力ヲ施スモノトス佛法第四  
 四三條白法四五二條  
 而シテ債權者カ各別ニ起訴スルコトヲ得ストノ原則ニ例外アリ即チ債權者ニ

於テ優先權ヲ有スル場合はナリ優先權トハ抵當權又ハ質權ノ如ク或物權ヲ以  
 テ擔保トナシ自己ノ辨濟ニ供スルモノナレハ債權者ニ於テ各自別々ニ債權ヲ  
 主張スルモ之カ爲メ決シテ他ノ債權者ノ妨害トナルコトナケレハナリ第九八  
 七條故ニ優先權ヲ有スルモノハ直チニ強制執行ヲ爲シ獨リ自ラ其代金ニテ債  
 權ヲ辨濟セシムルコトヲ得ヘキナリ之ヲ別除權ト稱シテ法律ハ第九百九十七  
 條以下ニ規定セリ

舊民法擔保編第四百十七條ニ曰ク居宅倉庫其他建物ノ貸借人ハ賃借人ノ使用  
 又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ供ヘタル動產物ニ付キ先取特權ヲ有スト此規定  
 アルカ故ニ若シ破産者ニ於テ家賃ノ滞リアレハ其家主ハ建物内ニアル動產物ニ  
 付テハ凡テ強制執行ヲ行ヒ得ヘキノ理ナリ去本法第九百八十六條ハ家主ノ先  
 取特權ニ一ノ制限ヲ加ヘテ其制限トハ賃借人ノ破産者動產中其營業用ニ供  
 スルモノニ限リテ強制執行ヲ三十日間猶豫セシムルナリ之レ營業ニ供スル財  
 產ヲ賣却セシムレハ俄カニ營業ヲ止メサル可カラス隨テ右商賣品ハ自ラ安値  
 ナラサレハ賣却スル能ハズシテ其結果多數ノ債權者ノ損害トナルニ至ルカ故

ナリ然レトモ此制限ハ唯家主ヲ抵當權ヲ暫時制限スルニ過キヌシテ其權利ノ本體ヲ害スルモノニアラザレハ貸借契約ニシテ已ニ滿期ニ至レルカ或ハ家主ヨリ其契約解除セラレ現ニ之ヲ取戻ス權利ヲ有スルニ於テハ法律ハ所有者ノ權利ヲ制限スルキニ非ス何トナレハ法律ニ當事者ノ意思ヲ枉ケテ貸借契約ヲ更改セシムルノ理ナレハナリ又營業ノ用ニ供セザル物品ニ付強制執行ヲ猶豫ナク爲シ得ヘキハ勿論ナリ何トナレハ此場合ハ猶豫スルノ必要ナキニ付キ必要ナキニ權利ヲ制限スルノ理ナケレハナリ(第九八六條)然レトモ縱令有効ニ得タル抵當權ト雖モ之ヲ登記ヲ要スル場合ニハ其登記ハ破産宣告前ナラザル可カラヌ(第九九二條)

第三 破産ハ破産宣告ニ依リテ自己ノ負擔スル債務ノ期限ノ利益ヲ失フコト破産ノ規定ハ破産者ニ對シテ未タ支拂期限ニ至ラザル債務ヲ債權者ヨリ要求シ得ヘキモノトセリ此事タルヤ破産法ノ祖先タル身代限法ニ於テモ又認メタル處ナリ身代限法第一條ニ曰ク貸金藏又ハ義務ヲ行フヘキモノノ約束期限ノ未滿内ニハ訴ヘ出ツルヲ許サ、ル規則ナレトモ其負債者又ハ義務ヲ行フ可キ

然ルニ法律ノ明文ヲ以テ其性質ヲ規定シタルカ如キハ驚クヘキノ至リナラスヤ

「アダムスミス氏ハ富國策第四編第二百四十頁ニ記シテ曰ク國家ハ如何ニシテ直接ニ且ツ相當ニ臣民ノ收入ニ課税スヘキカラ知ラサルヲ以テ臣民ノ消費スル物ニ課税シ以テ間接ニ其收入ニ課税セントス」ト即チ氏モ亦直接税間接税ノ類別ヲ認メサルニ非スト雖モ租税其物ノ性質ヲ區別セヌ故ニ氏ハ租税ヲ類別シテ土地ニ課スルモノト資本ニ課スルモノト及ヒ勞力ニ課スルモノ、三種ト爲セリ蓋シ此三者ハ生産ノ要素ナレハナリ

以上論スル如ク直接税間接税ノ類別ハ根據ナキモノナリト雖モ何人ノ著書ニモ必ス之ヲ論セリ是レ猶太陽ノ昇没スルコトナキハ理學上明白ナル事ナルニモ拘ラヌ理學書中未タ太陽ノ昇没ナル語ヲ除去セザルカ如キノミ

第六節 租税ノ移轉

租税ノ負擔ニ直接間接ノ區別アルニ因リ一ノ事實ヲ生ス即チ租税ノ移轉是ナリ

往時ニ在リテハ政治上ノ權力ニ基キテ租稅ヲ移轉シタルコトアリ即チ貴族ハ君主ト臣民トノ中間ニ介シテ其君主ニ納付シタル租稅ヲ轉シテ臣民ニ賦課スルコト是ナリ又或ハ貴族僧侶等ハ全ク租稅ヲ免セラレ臣民ノミ獨リ之ヲ負擔セシコトアリ此等ノ事實ハ今日ノ立憲國ニ在リテハ多少其痕跡ヲ留ムルモノナキニアラスト雖モ概シテ之ヲ認ムルヲ得ス而シテ今日ニ於ケル租稅移轉ハ政治上ノ權力ニ基クニアラスシテ商業上ノ移轉ナリトス

開明ノ度漸ク其歩ヲ進メ經濟組織益複雑ト爲ルニ隨ヒ市場即チ交換ノ要愈増加スルニ至ルハ經濟上ノ原則ナリ古昔未開ノ社會ニ在リテハ多クハ自產自費ノ法ニ隨ヒ交換ノ事未タ頻繁ナラザリシヲ以テ市場ノ必要ヲ感セザリシト雖モ分業ノ法行ハル、ニ至リテ交換市場ノ必要ヲ生シ隨テ市場ニ於ケル物價ノ自由競争ヲ起セリ此自由競争ノ市場ニ立チテ賣手ハ自己ノ支拂ヒタル租稅ヲ其物ノ賣價中ニ包容セシメ以テ其租稅ヲ買手ニ移轉シ買手ヲシテ其負擔者タラシムルニ至レリ然レトモ唯一度ノミ支拂フ租稅ニ於テハ右ノ方法ヲ以テ之ヲ移轉スルコトヲ得ス何トナレハ過去ニ屬スル生産費用ノ物價ニ影響スルハ

將來ニ必要ナル再生産ノ見込費用ニ比シテ大ニ少ナケレハナリ又各生産者ニ其生産物ノ價格ノ一部分ヲ平等ニ要求スル租稅ハ賣買取引ニ依リテ之ヲ移轉スルコトヲ得サルモノトス

「ハルド」氏ハ其著書ニ於テ新ニ課シタル租稅ト既ニ存在セル租稅トハ移轉ニ關シテ大ニ區別アリト言ヘリ是レ其過去ニ屬スルト將來ニ屬スルトニ因リテ異なるナルコトヲ示シタルモノナリ又人ニ課セラレタル租稅ハ之ヲ移轉スルコトヲ得サルヲ通則トスレトモ時ニ或ハ之ヲ移轉スルコトアリ例ヘハ非常ニ貴重セラル、勞力者ノ如キ是ナリ此勞力者ハ自身ニ課セラレタル租稅ヲ移轉スルコトヲ得ヘシ又收入稅ハ生産事業ニ缺ク可カラサル勞力者又ハ其階級ノ生活必要費ニ侵入スルトキハ其侵入シタル部分ハ之ヲ移轉スルコトヲ得ヘシ又課稅セラルタル生産物ノ買手ニ其課稅ヲ移轉スルコトヲ得ルハ其生産者カ負擔ノ更ニ少キ又ハ全ク負擔ナキ他ノ生産事業ニ其業ヲ轉スルノ自由ナル場合ナラザルヘカラス又租稅ヲ一旦他ニ移轉スルモ其課稅ニ因リテ物品ノ需要ヲ減シ隨テ其物價ノ下落スルニ於テハ其生産者再ヒ之ヲ負擔セサル可カラサルニ至ル

之ヲ稱シテ租稅ノ移轉展ト云ヌ也蓋實則其移轉ハ其作用頗ル複雑ナルヲ以テ財政學上一ノ難問ニ屬ス  
 此ノ如ク租稅移轉ハ其作用頗ル複雑ナルヲ以テ財政學上一ノ難問ニ屬ス  
 ソー氏ノ「財政學」千七百七十一年刊行ニ曰ク「租稅移轉ノ如ク複雑ナル問題アル  
 コトナク總テノ租稅ハ殆んど一トシテ移轉セサルモノナク租稅ノ如ク世ニ無  
 感覺ナルモノナシト下其意蓋シ租稅ハ何人ニ嫁セラレ、ヤモ知ル可カラサルヲ  
 云フナリ」カーナルド氏ノ「政治經濟論」千八百二年刊行ニモ亦曰ク「凡ソ租稅ハ之  
 ヲ支拂フ者ノ賣手ナルト將タ買手ナルトヲ問ハス終ニハ全國民皆之ヲ負擔ス  
 ルモノナリ是レ猶腕ヲ斬ルトキハ初メ腕ヨリ其血ヲ失フモ終ニハ全體ノ血ヲ  
 失フニ至ルカ如シト又「ピリッドウヅ」氏ハ千八百四十二年租稅論ヲ出版シ翌年  
 「富國策」ヲ公ニシタル學者ナリ氏ハ地租ノ移轉ニ付キ痛論シテ曰ク「地租ハ最初  
 地主之ヲ負擔スト雖モ直ニ移シテ小作人ニ拂ハシムルモノナリ故ニ租稅ハ強  
 者之ヲ負擔セス直ニ弱者ニ移轉ス可シト」スタイン氏ノ「財政學」第三百二十五節  
 ニ曰ク「租稅移轉ハ一ノ驚ク可キ思想ノ複合ナリ何トナレハ人各己ノ支拂ヒタ  
 ル租稅ヲ他人ニ移轉シ又他人ノ生産物ヲ買ヒタルトキハ其人ノ支拂ヒタル租

稅ヲ自己ニ負擔シ相互ニ之ヲ移轉セシム故ニ若シ競争ニシテ自由ナルトキハ  
 本來ノ形狀ト異ナルコトナク唯思想ノ複合セルノミナレハナリ」ト然レトモ實  
 際ニ於テハ競争ニ強弱ノ差アリ賢愚ノ別アリテ其本來ノ形狀ト相同シキ結果  
 ヲ生スルコトヲ得サルナリ

國民開明ノ度ノ漸ク高マルニ隨ヒ絶對的ニ又ハ比較的ニ租稅益增加スルヲ以  
 テ租稅移轉ノ問題モ亦困難ヲ加フヘク之ヲ明晰ナラシムルコトハ愈緊要ナル  
 ヘシ故ニ苟モ經濟社會ニ立チテ自ラ防キ自ラ損セザラシコトヲ欲セハ此問題  
 ヲ明ニシ以テ之ニ必要且相當ナル方法ヲ施サ、ルヘカラス故ニ吾人ハ最モ單  
 純ナル場合ヨリ始メテ之ヲ研究セントス即チ先ツ競争ノ全ク自由ナル場合實  
 際ニ於テハ法律ニ因リ情況ニ因リ若クハ人ノ賢愚等ニ因リテ競争ハ全ク自由  
 ナラサルモテ假定シ租稅移轉ノ事ヲ考究セント欲ス

第七節 地租ノ移轉

地租ハ或ハ之ヲ「リカルド」氏ノ所謂「地代」ニ就テ之ヲ量リ或ハ其純收穫ニ就テ之  
 ヲ量リ或ハ總收穫ニ就テ之ヲ量リ又或ハ其他ノ標準ニ依リテ之ヲ定ム今ヤ各

場合ニ於テ地租ハ如何ナル移轉ヲ爲スモナルヤヲ論究セシムルニ  
 甲、地租カ地代ノ一部ナルトキハ爲ニ土地產物ノ物價ヲ高ムルコトナシ蓋シ  
 農產物ノ物價ハ地代ナキ土地ノ生産費用ニ依リテ以テ定マルヘキコト既ニリ  
 カルド」ヲ論定シタル如ク且ツ租稅ナキ場合ニ於テモ地代ハ之ヲ支拂フヘキモ  
 ノナルヲ以テナリ故ニ地租ハ其土地所有主ノ負擔ニ歸シ農產物消費者ノ負擔  
 ト爲ラス地租カ地代ノ全部ヲ掩フ場合ニ於テモ亦同一ナリトス然レトモ此ノ  
 如キ場合ニ於テハ其土地ノ地價ハ地租ヲ利子トシテ算出セタル資本ニ相當ス  
 ル額ニ準シテ下落スルハ勿論ニシテ例ヘハ或ル土地ノ地代ハ三步ニシテ地租  
 ハ二步五厘ナリト假定センニ若シ地租ノ割合高マリテ地代ノ割合ト同シク三  
 步トナルトキハ此土地ノ價格ハ幾何ノ下落ヲ來スヤト云フニ普通資本ニ對ス  
 ル利子ノ割合ヲ五步トシ之ヲ以テ地租ノ金額ヲ除スレハ地租金額ヲ生スル資  
 本ハ幾何ナルヤヲ知ルヲ得ヘシ故ニ今地租ヲ十五圓トシ五步ヲ以テ之ヲ除ス  
 ルトキハ三百圓ヲ得ヘシ是レ即チ十五圓ノ利子ヲ生ムヘキ資本ノ額ニシテ此  
 三百圓ヲ現在ノ地價ヨリ減スルトキハ千圓ノ價格アル土地ハ七百圓ト爲ルヘ

シ此額ハ地租カ地代ノ全部ヲ掩フニ至リタルカ爲ニ下落シタル地價ナリト  
 ス

レオボルドタルグ氏普國富論第一卷第九十節ニ曰ク「土地ノ地代并ニ地租  
 ハ其純收穫ノ七割五分迄ハ昇行スヘシト雖モ絕對的ニ耕作ヲ不利益ナラシム  
 ルコトナシト是レ蓋シ太タ豐饒ナル土地ニ就テ立言シタルモノナルヘシ故ニ  
 一概ニ此ノ如ク云フコトヲ得ス」ボリ」氏ハ說ヲ立テ、曰ク「地租ハ決シテ移轉  
 シ得ヘキモノニアラス」ト是レ亦汎博ニ過ク  
 乙 土地ノ純收穫ニ課セラレタル地租カ地代ヲ超過シ勞力ニ對スル賃銀并ニ  
 資本ニ對スル利子ニ侵入スルトキハ他ノ勞力并ニ資本ノ用途ニシテ租稅義務  
 ナキトキハ勞力者ハ其賃銀ノ低廉ナルカ爲去リテ他ノ事業ニ轉スヘク資本家  
 ハ其利子ノ安キカ爲同シク他ノ事業ニ轉スヘシ故ニ農產物ノ市價騰貴シテ資  
 本家ニ高キ利子ヲ與ヘ勞力者ニ高キ賃銀ヲ與フルニ至ルマテハ勞力并ニ資本  
 ハ再ビ農業社會ニ來ラサルヘシ  
 丙 生産費用ヲ順視セスシテ總收穫ニ課レタル地租例ヘハ十分ノ一稅ノ如シ

ハ農産物ノ市價ヲ變更セザルヘシ何トナレハ需要供給者其人ヲ異ニスヘシト雖モ其分量依然トシテ變セザル可ケレハナリ唯此場合ニ於テ從來生産費用ヲ掩フノミニテ地代ヲ支拂ハサル最悪地ヲ耕作セル者ハ損害ヲ被フルヘキカ故ニ農産物ノ市價騰貴スルニアラサレハ其業ヲ捨テサルヲ得サルノ不幸ニ陷ルヘシ而シテ土地所有主及ヒ農業者ハ資本家及ヒ消費者トシテ損害ヲ受クルノミナラス市價ノ騰貴ヨリ農産物賣却高ノ多少減少スルカ爲ニ二重ノ損失ヲ蒙ルヘレ

「セニオー」氏曰ク十分ノ一税ノ如キモノヲ土地收穫ニ課スルトキハ五穀等ノ市價ハ稍騰貴スヘシ然レトモ遂ニハ消費ヲ減少シ隨テ生産ヲ減少シ市價ヲシテ舊位ニ復セシムヘシ」ト「ミル」氏モ此說ニ贊同シ尙付言シテ曰ク十分ノ一税進化シテ地租ト爲ルトキハ農産物ノ市價ヲ下落セシメ地主之ヲ負擔シ消費者之ヲ免ルヘシト氏ハ更ニ曰ク十分ノ一税ハ普通利子ヲ減セシテ以テ地代ノ騰貴ヲ妨止セリト往時貴金屬鑛山ノ課税法ハ其總收穫ニ依リテ計算セシテ以テ右ニ述ヘタル所ハ此場合ニモ準用スルコトヲ得ヘシ然レトモ「リカルド」氏「經濟原論」

第十三章ニ於テ金ハ之ヲ五穀ト區別セリ何トナレハ金ハ米穀ノ如ク供給スルコト容易ナラスト雖モ亦米穀ノ如ク年月ヲ經過スルニ因リテ腐蝕スルモノニアラス數千年前ノ金ト雖モ尙今日ニ現存セリ加之金貨ノ交換價格ヲ増加スレハ能ク多クノ需要ニ應スルコトヲ得レハナリ

丁、地租カ全ク收穫ニ關係ナキ場合即チ或ハ其面積ニ因リ或ハ勞力者ノ數ニ因リ或ハ古昔露國ニ於ケルカ如ク人口ノ數ニ依リテ課税スル場合ニ於テハ或寺院ニ屬スル地又ハ貴族ノ所有地等ハ免税ナルヲ以テ地代ナシト雖モ消費總額ヲ掩フ爲メ耕作ニ必要ナル土地ハ課税セラル、ヲ以テ農産物ノ市價ハ騰貴スヘシ市價ノ騰貴ヨリ生スル利益ノ一部分ハ國家ニ落チ他ノ一部分ハ多幸ナル土地所有主ニ落ツヘシ何トナレハ課税セラレタル土地ノ生産費用ハ増加スルヲ以テ地代増加スレハナリ

第八節 勞力ニ課スル諸租稅ノ移轉

勞力者ノ賃銀ハ絕對的ニモ(入頭稅亦比例的ニモ)階級稅直接ニモ亦間接ニモ(生活必需品ニ課税シ爲ニ其價ヲ高クシテ)課税スルコトヲ得ルナリ若シ此租稅ヲ

只一種ノ勞力ニ課スルハ其種ノ勞力ニ從事スル者ハ其業ヲ他處移テ以テ其賃銀高クシテ租稅ニ全ク使用者ニ移轉スルモ若シ然ラズレバ勞力者ハ爭フテ課稅ナキ他ノ業ニ移ルヲ以テ其結果總ヘテノ勞力者ニ總テノ租稅ヲ分課スルニ至ルヘシ

一地方ニ限レル勞力ニ課セラレタル租稅ハ之ヲ移轉スルコト極メテ容易ナリ何トナレバ勞力者ハ或ハ都府ヨリ地方ニ或ハ地方ヨリ都府ニ往來スルコト容易ナレハナリ之ニ反シテ全國普通ニ課セラレタル租稅ハ之ヲ移轉スルコト甚タ困難ナリ(デバリュ第一卷第七十八節)

英國宰相ノ年俸五千磅ナリ之ニ一割ノ租稅ヲ課セラレタリト假定スルトキハ實際四千五百磅ナリ之ニ對シ候補者ノ供給從來曾テ止マサルモ亦疑フニ足ラサルナリ

之ヲ要スルニ各勞力租稅ハ賃銀ニシテ相當ニ高ク該稅ヲ引キ去ルモ尙ホ勞力者カ其家族ノ生計ヲ維持スルコトヲ得ヘキ餘裕アル場合ニ於テハ支拂者即チ勞力者ノ負擔ニ屬スト雖モ之ニ反シ若シ從來ノ賃銀ニシテ辛ウシテ生計ノ最

少費ヲ補フニ足ルノミナリシトキハ勞力租稅ハ爲ニ賃銀ヲ高クシ以テ勞力使用者ニ移轉スヘシ而シテ厄年ニ於テハ若シ一方ニ勞力者ノ需要ヲ増加スルニアラサレハ或ハ結婚ノ數ヲ減シ或ハ小兒ノ死亡人工的ヲ増シ或ハ他所ニ移ル(移住ヲ促カス等種々ノ悲境ヲ現スヘシ然レトモ此事タルヤ國家カ其租稅ヨリ收得シタル歲入ヲ使用スルノ途如何ニ大關係ヲ有スルモノナルカ故ニ若シ國家カ從前用井ラレサリシ勞力ヲ新ニ使用スルトキ例ヘハ兵士ノ數ヲ増加スルトキハ唯從來使用セル勞力者ノ賃銀ヲ幾分カ増シタルトキ又ハ其歲入ヲ全ク貯蓄シタルトキ又ハ外國ニ拂ヒ出シタルトキニ比スレハ速ニ一般ノ賃銀ヲ高ムルモノナリ

「マカロホ」氏租稅論第百四節ニ曰ク奴婢ト自由勞力者トノ間ニハ著シキ區別アリ即チ奴婢ノ間接稅ハ主人ノ負擔スル所ナルヲ以テ之カ爲ニ奴婢ノ需要ヲ減少スルノ傾アリ又時間毎賃銀者ト事業毎賃銀者トノ間ニモ同シク區別アリ即チ前者ノ場合ニ於テハ其租稅ハ之ヲ他ニ移轉スト雖モ同時ニ己ノ位地ヲ低ウスルノ不幸ヲ見ルヘク之ニ反シテ後者ノ場合ニ於テハ其租稅ノ爲ニ刺撃セテ



レテ一層精勵ヲ増スト雖モ其租稅ハ勞力者ノ負擔タルヘシ英國ニ於ケル茶煙草酒稅ハ著シク其賃銀ヲ高メタリ然レトモ勞力者ハ從前ヨリ其勉勵ノ度ヲ増セリ

「地位相當ノ最小需要」ト云フハ眞ニ漠然タル標準ナリト雖モ假ニ公議輿論ヲ以テ各階級ニ相當ノ賃銀ヲ一定スルコトヲ得ヘシトセシニ未タ此相當賃銀ニ異動ヲ生セサルニ際リ國家カ其一階級ニ課稅スレハ賃銀ハ之ニ準シテ騰貴セサルヲ得サルヘシ此場合ニ於テ賃銀ノ騰貴ヲ遂ケ能ハサルトキハ其階級ノ價格並ニ勞力ノ價格ハ遂ニ下落スヘシ「ホフマン」氏租稅論第五十九節參照

最下級ノ勞力者ヨリ移轉セル勞力租稅ハ起業者ノ利益又ハ資本ノ利子若クハ二者ヲ併セテ減少スヘシ故ニ若シ賃銀ノ騰貴シテ同時ニ勞力生産物ノ價格騰貴セザルトキハ起業者ハ其資本ヲ他ノ利益多キ資本生産業ニ移スヘシ而シテ賃銀ハ下落シ物價ハ騰貴セ再ヒ平準ヲ得ルニ至ルヘシ然レトモ勞力ノ賃銀ニ直接ニ課稅スルト間接ニ課稅スルトノ間ニ一ノ注意ヲ要スルモノアリ直接ノ場合ニハ之カ移轉ヲ受クル者ハ其勞力使用者ノミナリト雖モ之ニ反シテ間接

業ノ副原料タル石炭ノ如キモ漸次使用額ヲ増加セリ即チ二十七年ニ於テハ八百万噸ナリシカ二十九年ニハ八百五十万噸ニ上リ恰モ五十万噸ノ増加ヲ爲セリ又貿易上ニ於テモ工藝品ノ輸出即チ工業産物ヲ輸出スル額ハ比較的ニ増加シ而シテ海外ヨリ輸入スル工藝品ハ漸次其額ヲ減少セリ今數ヲ以テ之ヲ示セハ二十一年ニ於ケル輸出總額ヲ百ト假定シ其年ニ於ケル工藝品ノ輸出額ハ恰モ六十六ニ當リ三十年ニ於テハ七十八ニ上レリ即チ二十一年ニ於テハ六割六分ナリシカ三十年ニハ七割八分ニ増加セルナリ次ニ輸入ノ點ニ付テハ二十一年ニ於ケル輸入總額ヲ百ト假定スレハ其九十二即チ九割二分ハ悉ク工業品ノミナリシカ三十年ニ於テハ六十即チ六割ニ減少セリ此ノ如ク我國ノ工業カ漸次好運ニ向ヘルハ事實ナリ然ラハ我國民ハ之ヲ以テ安堵スルコトヲ得ルカ否決シテ然ラサルナリ

近來日本ノ工業ト云ヘハ或ハ勸業銀行カ工業者ニ貸出ヲ爲ス場合ニ於テモ或ハ其他工業問題ノ起ル場合ニ於テモ唯紡績セメント「アルカリ」等ノ如ク宏大ナル工場ヲ有シ多數ノ職工ヲ使用シ煙突雲ニ聳ニテ黒烟高ク昇レル都會ノ工

場工業ニノミ若眼スレトモ是レ唯容易ニ人目ヲ惹クモノニ過キスシテ詳ク日本ノ工業ヲ悉クシテ欲セハ人目ヲ惹カサル工業ノ數却テ多キヲ知ラサル可カラス而シテ日本現在ノ狀況ヨリ云ヘハ其人目ヲ惹カサル工業ハ却テ日本ノ富ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ故ニ予ハ日本ノ工業ヲ論セント欲セハ必ス輸入工業ト日本固有ノ工業トヲ區別シ此兩者ヲ同時ニ觀察セサル可カラスト信ス輸入工業ト稱スルハ即チ紡績セメント「アルカリ」等ノ工業ニシテ初メ之ヲ輸入シタル目的ハ一ニ此等工業品ノ輸入ヲ防カントスルニ在リシ當時以爲ラク近來紡績ノ輸入甚タ夥シ宜シク之ヲ防カサル可カラズ燐寸ノ輸入亦非常ナリ宜シク之ヲ防カサル可カラスト是レ實ニ三十年前ニ於ケル日本ノ有様ニシテ木戸大久保岩倉ノ如キ政治界ニ於ケル先輩カ在野ノ先覺者ト謀リテ此等ノ工業ヲ起シタル所以ナリ然ルニ紡績ノ如キハ既ニ其期望ノ範圍ヲ超エ進シテ海外ヘ輸出スルニ至レリ現ニ昨年ノ如キハ支那ヘ輸出シタルモノ、ミニテモ千何百万圓ノ巨額ニ達セリ其他燐寸ノ如キモ昨年ノ輸出ハ六百万圓ニ上リ又セメント「アルカリ」ノ如キハ未タ此ノ如キ盛況ニ到ラスト雖モ漸次發達

スルヤ疑ナシ此等ノ工業ハ初メ外國ヨリ輸入シタルモノナルヲ以テ予ハ之ヲ輸入工業ト名ク次ニ固有工業トハ日本在來ノ工業ニシテ例ヘハ西陣、桐生、足利等ノ織物、福嶋ノ漆器、瀬戸、金澤等ノ陶器ノ如キハ其主ナルモノニシテ此等ノ工業ハ從來日本ニ於テ非常ニ發達シタルモノナリ殊ニ陶磁器ハ徳川氏ノ頃國守大名等カ其領内ニ此等ノ工業ヲ發達セシメント欲シ大ニ之カ獎勵ヲ爲シ且其城中ニ窯ヲ築キシ者少ナシトセス要スルニ此等ノ工業ハ日本在來ノ工業ナルヲ以テ予ハ之ヲ固有工業ト名クルナリ此ノ如ク此二種ノ工業ハ其趣ヲ異ニセラルヲ以テ其工業品ヲ輸出スル輸出先ニ付テモ總ヘテ日本ヨリ後進ノ國即チ支那朝鮮或ハ南洋諸島ニ止マリ之ヲ先進國タル歐米諸國ニ輸出スルコトヲ得スト雖モ之ニ反シ日本固有ノ工業品ハ倫敦、紐育、巴里等ノ市場ニ向テ之ヲ輸出セリ故ニ其輸出先ヨリ見ルモ日本ノ工業ニハ判然トシテ二種ノ區別アリ而シテ之ヲ營ム方法ニ於テモ亦著レキ相違アリ輸入工業ハ前ニモ述ヘタル如ク宏大ナル工場ヲ有シ株式ヲ以テ多額ノ資本ヲ集メ多數ノ職工ヲ一所ニ集メテ工場組織ヲ爲セリ然ルニ固有工業ニ於テハ極メテ幼稚ナル狀態ヲ守リ或ハ一臺

ノ機或ハ一基ノ窯ヲ置キ他ノ業務ノ餘暇ヲ以テ之ヲ練リ之ヲ燒クカ如キ有様  
ニシテ即チ毎戸製造家内工業ト稱スヘキ姿ナリトス故ニ固有工業ハ其資本額  
モ極メテ僅少ニシテ多クハ其ノ一臺機一基ノ窯ニ過キス又職工ノ如キモ輸入  
工業ト異ナリ所々ニ散在シテ各自別個ニ之ヲ營メリ其結果トシテ同一ノ物品  
ヲ多量ニ調達スルコトヲ得ス若シ日本内地ノ需要ニ應スルノミナリトモハ必  
スシモ不便ナカル可シト雖モ之ヲ海外ニ輸出スル貿易即チ一個ノ帳簿ヲ以テ  
巨額ノ注文ヲ受ケ一片ノ電信ヲ以テ多量ノ物品ヲ調達ス可キ貿易ノ上ニ於テ  
ハ非常ノ不便アリ是レ我固有工業ノ缺點ナリトス輸入工業ト固有工場ト異ナ  
ル所ハ尙種々ノ點ニ存セリ例ヘハ工業上ノ智識學問等ノ點ニ於テモ輸入工業  
ニ於テハ或ハ工科大學ヲ卒業セル學士ヲ雇備シ或ハ工業學校ヲ卒業シタル技  
手ヲ雇入レ或ハ技師ヲ海外ニ派出シテ彼ノ地ノ工業ヲ觀察セシムル等總ヘテ  
輸入工業ハ其組織文明的ナルヲ以テ其結果トシテ漸次新知識ヲ應用スルヲ得  
レトモ固有工業ニ在リテハ單々祖先傳來ノ技術ヲ守レルノミニシテ中ニハ工  
科大學ヲ卒業シタル學士又ハ工業學校ヲ卒業シタル者アリトスルモ極メテ稀

有ノ事ナリトス隨テ甚ダ時勢ニ暗ク例ヘハ陶器製造者カ薪炭ノ價額何程昂騰  
スルモ依然トシテ薪炭ヲ用井一方ニ於テハ日本ノ山林ハ漸次裸體ト爲リ而シ  
テ軍艦モ造ラサル可カラヌ家モ建テサル可カラヌ木材ノ需要ハ日ニ増加スル  
ヲ以テ薪炭ノ價額ハ次第ニ昂騰スルニ拘ラス一方ニ於テハ其薪炭ヲ用井テ製  
造スル陶器ハ漸次其價額ヲ低落セリ隨テ其工業ハ到底收支償ハサルニ至ル尤  
モ織物ノ如キハ稍々進取的ノ空氣ヲ輸入シタルニ似タリト雖モ他ノ固有工業  
ニ至リテハ殆ト計算立タサルナリ右ノ如キ事柄ヲ述ヘント欲セハ實ニ枚舉ニ  
遑アラサル可シ然レトモ今日ノ講演ハ此ノ如キ事ヲ論スルノ目的ニ在ラサル  
ヲ以テ大略ニ止ムヘシト雖モ要スルニ日本ノ工業ハ決シテ彼ノ煙突ノ聳ユル  
輸入工業ニ在ラスシテ却テ日本現在ノ經濟ニ大關係ヲ有スルモノハ固有工業  
タルコトヲ了知セラルレハ予ノ望ハ足レリ又職工ノ事ニ付テハ幾多ノ述フ可  
キコト國家ノ大問題タル可キコトアル可シト雖モ今日ハ之ヲ省キ直ニ資本ノ  
事ヲ述ヘント欲ス

決シテ減少セスト曰ヘリ是レ勿論ノコトナリ前刻述ヘタル如ク二十七年以來株式ノミニテモ資本ノ總額ハ五千万圓ヨリ一億五千万圓ニ上リ又拂込額ニ於テモ二倍ノ増加ヲ爲セリ然レトモ地方ニ於ケル工業ノ實際ヲ觀察スレハ日本ノ工業界ニ於テハ資本ノ充分ナラサル爲メ其工業ノ發達セサルコトヲ容易ニ知ルコトヲ得ヘシ諸君ノ知ル如ク彼ノ日清戰爭ノ終ルヤ巨額ノ償金ヲ輸入スルヲ以テ必ス日本ニ於テ工業熱ノ盛ト爲ルニ相違ナシ之ニ對シテ豫メ警戒ヲ與ヘ置カサル可カラスト考ヘタルハ現ニ予モ其一人ニシテ自己ノ及フ限りハ之カ爲ニ盡ス可キ精神ナリシ然ルニ其目的達セラレスシテ日本ノ經濟ハ非常ニ不當ナル膨脹ヲ爲セリ其結果一昨年ノ暮ヨリ昨年一年ノ如キ多少好景氣ヲ呈ス可シトノ豫想ナリレニモ拘ラス昨年ニ於ケル日本ノ經濟界ハ實ニ悲境ニ沈淪シタリ即チ充分警戒ヲ盡シタレトモ其目的ヲ達スルコトヲ得サリシ而シテ一方ニハ最早自然療治ニ委スルノ外ナシトシ之ヲ放任ス可シト主張シタル者サヘアリシ然レトモ予ハ之ヲ首肯スルコト能ハス是レ恰モ予ノ放蕩スルニ當リ親カ異見ヲ爲サスシテ其自ラ悔悟スルマテ打捨テ置カントスルニ等レク

決シテ之ヲ以テ親切ナル處置ト云フ可カラス此ノ如キ場合ニ於テハ宜シク盡ス可キ手段ヲ盡サ、ル可カラス又其手段ノ如キモ道ヲ誤ラサルコトヲ要ス例ヘハ平常衛生ヲ唱アルハ可ナリ一タヒ衛生ヲ過リテ病氣ニ罹リタルトキハ暴食ノ結果ナルヲ以テ之ヲ打捨テ置クヘシト云ハ、醫師ハ遂ニ入用ナシ暴食ハ初ヨリ之ヲ戒メサル可カラス然レトモ既ニ其戒ヲ破リテ病氣ヲ醸シタル以上ハ是非ナシ之ヲ治療スルノ道ヲ講スルハ親切ナル醫師ノ本分ナリ是故ニ予ハ廣ク地方ヲ巡廻シテ其實際ヲ觀察セシニ多クノ工業會社ハ損失ニ損失ヲ重テ就中紡績會社ノ如キハ殆ト缺損ノ有様ニテ僅々一二ノ會社ニ於テ配當ヲ爲セ、ルノミ七十有餘ノ多キ紡績會社カ近年マテ非常ノ配當ヲ爲シ居リシニ一昨年ヨリ昨年マテハ一二ヲ除クノ外何レモ數万圓ノ損失ヲ爲セシハ其事業ノ性質上此ノ如クナリシカ或ハ之ヲ營ム人ノ不當ナルカ爲カ即チ缺損ヲ生シタル原因ヲ質サ、ル可カラス其原因ハ素ヨリ一ニシテ足ラズト雖モ大體ニ於テハ工業ノ有様カ甚タ投機的ナリ粗暴ナリ真ニ公共的ノ考ヲ以テ其業ヲ營メル者ハ殆トナシ即チ株式取引所ノ極メテ有名ナル株屋即チ金看板ヲ懸ケタル投機

者カ其工業ヲ營メルナリ而シテ其株主ノ如キハ多クノ中ニハ實ニ驚ク可キ者ナシトス即チ工業ニ熱心モナク又工業ノ利益ノ何タルヲ知ラス又毫モ工業上ノ智識モナキ山師ニシテ其株主タル者少ナシトセス而モ此ノ如キ株主ハ總會ニ臨メハ却テ他ノ工業上ノ經驗ヲ有スル株主ヲ制シテ議論ヲ逞ニスルノ有様ナリ其他職工ノ如キモ皆地方ヨリ募集シタル者ニシテ其募集セラレマテハ決シテ職工ニ在ラサルナリ或ハ將ニ路頭ニ徨ハントセシ者或ハ獵師ノ子ニ在ラサレハ農家ノ娘ナリ此ノ如ク職工トシテノ經驗素養ヲ有セサル者カ工場ニ入り機械ノ前ニ立ッコトナルヲ以テ予ハ之ヲ稱シテ職工ト言ハス故ニ職工ノ功力モ極メテ薄弱ナル可シ此他尙種々ノ原因アル可シト雖モ最モ主ナル原因ノ二トシテハ資本ノ缺乏ナルコトヲ發見シタルナリ如何トナレハ會社ノ事務報告ニ依リ其計算ニ依レハ要スル所事業ニ於テ二万圓ノ利益ト爲レリ然ルニ資本ノ利子ニ一割二分ヲ拂ヒ其金額三万圓ニ當ルヲ以テ結局一萬圓ノ缺損ヲ爲セルナリ即チ利息ノ高キ借金ヲ以テ工業ヲ營ムカ故ニ缺損ヲ生シ居ルコトヲ着々發見シタリ例ヘハ百万圓ノ會社ナレハ農商務省ノ許可ヲ受ケ登記ヲ受

雜 錄

- 乙種入學試驗。本校規則第十條ニ依リ徵兵令第十三條及第二十二條ノ特例ヲ受ケントスル者ノ爲ニ先月十九日特ニ乙種入學試驗ヲ執行セリ
- 編入試驗。先月二十日ヨリ四日間二年級編入試驗ヲ執行セリ
- 特待生選拔式。本校規則附則ノ規定ニ依リ本月一日特待生ヲ選拔シ其式ヲ舉行セリ
- 既判講義。去月二十八日及ヒ本月五日ニ發行シタル三部、一部ノ目次左ノ如シ

第三部 刑事訴訟法 小野學士  
 憲法 副島學士  
 刑法各論 藤本學士  
 國際公法 秋山學士  
 行政ノ訴訟法 梅井學士

第一部 債權買賣 兩角學士  
 親族法 掛下學士  
 民事訴訟法 前田學士  
 債權總則 加古學士  
 失物權 小宮學士  
 火災者ノ責任法 梅井學士

者カ其工業ヲ營メルナリ而シテ其株主ノ如キハ多クノ中ニハ實ニ驚ク可キ者ナシトス即チ工業ニ熱心モナク又工業ノ利益ノ何タルヲ知ラス又毫モ工業上ノ智識モナキ山師ニシテ其株主タル者少ナシトセス而モ此ノ如キ株主ハ總會ニ臨メハ却テ他ノ工業上ノ經驗ヲ有スル株主ヲ制シテ議論ヲ逞ウスルノ有様ナリ其他職工ノ如キモ皆地方ヨリ募集シタル者ニシテ其募集セラレハマテハ決シテ職工ニ在ラサルナリ或ハ將ニ路頭ニ徑ハントセシ者或ハ職師ノ子ニ在ラサレハ農家ノ娘ナリ此ノ如ク職工トシテノ經驗素養ヲ有セサル者カ工場ニ入り機械ノ前ニ立ツコトナルヲ以テ予ハ之ヲ稱シテ職工ト言ハス故ニ職工ノ巧方モ極メテ薄弱ナル可シ此他尙種々ノ原因アル可シト雖モ最モ主ナル原因ノ一トシテハ資本ノ缺乏ナルコトヲ發見シタルナリ如何トナレハ會社ノ事務報告ニ依リ其計算ニ依レハ要スル所事業ニ於テ二万圓ノ利益ト爲レリ然ルニ資本ノ利子ニ一割二分ヲ拂ヒ其金額三万圓ニ當ルヲ以テ結局一萬圓ノ缺損ヲ爲セルナリ即チ利息ノ高キ借金ヲ以テ工業ヲ營ムカ故ニ缺損ヲ生シ居ルコトヲ着々發見シタリ例ヘハ百万圓ノ會社ナレハ農商務省ノ許可ヲ受ケ登記ヲ受

雜 錄

○乙種入學試驗。本校規則第十條ニ依リ徵兵令第十三條及ヒ第二十三條ノ特例ヲ受ケントスル者ノ爲ニ先月十九日特ニ乙種入學試驗ヲ執行セリ

○編入試驗。先月二十日ヨリ四日間二年級編入試驗ヲ執行セリ

○特待生撰拔式。本校規則附則ノ規定ニ依リ本月一日特待生ヲ撰拔シ其式ヲ舉行セリ

●既判講義錄。去月二十八日及ヒ本月五日ニ發行シタル三部、一部ノ目次左ノ如シ

第三部 第二號 刑事訴訟法 小野學士  
 憲法 劭島學士  
 刑法各論 勝本學士  
 國際公法 秋山學士  
 行政ノ訴訟法 梅井學士  
 第一部 第三號 債權買賣 兩角學士  
 親族法 掛下學士  
 民事訴訟法 前田學士  
 債權總則 加古學士  
 失火者ノ責任法 小宮學士  
 梅井學士

○ 注意

明治三十二年三月九日印刷  
明治三十二年三月十日發行

●校外生入學ノ申込ニハ必ス**第一部、第二部、第三部**又ハ**全部**校外生ト

明記スヘシ

●爲替ニテ送金ノ節ハ**飯田町**受

取人符所氏名ヲ**和佛法律學校會**

計課ト記入スヘシ

●月謝拂込其他ノ通信ニハ住所氏名ノ外必ス第何部校外生ト記入スヘシ

●講義録中落丁アルトキハ其儘返展アルニアラサレハ再送セズ

●月謝金ノ切レタトキハ講義録ノ封皮ニ**朱印**

ヲ押捺スヘキニ付早速送金スヘシ

●編輯上ノ用向ハ**編輯部**宛ニテ通信スヘシ

東京市牛込區矢來町三番地

編輯兼發行者 上野政雄

東京市芝區西久保明舟町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區西久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

發行所 司法省 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見町六丁目十六番地)

電話 (本局千二百七十四番)

明治廿二年二月九日內務省許可